

殺終身。加功セサル者ハ。懲役五年。  
已ニ殺ス者ハ。皆斬。

第百六十七條 凡委任官。勅任官ヲ

謀殺スル者ハ。判任官。委任官ヲ謀

殺スルト。罪同シ。其勅任官。委任官

ヲ謀殺シ。及ヒ委任官。判任官ヲ謀

殺スル者ハ。凡人謀殺ヲ以テ論ス。

謀殺祖父母父母條例

第百六十八條 凡祖父母。父母。及ヒ

伯叔父。姑。兄。姊。若クハ外祖父母。夫

夫ノ祖父母。父母。ヲ謀殺スルニ。已

ニ行フ者ハ。皆斬ニ處スル律ヲ改

謀殺祖父母父母

凡祖父母。父母。及ヒ伯叔父。姑。兄

姊。若クハ外祖父母。夫。夫ノ祖父

母。父母。ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ

者ハ。皆斬ニ處スル者ハ。皆斬。三

等親以下ノ尊長ヲ謀殺スルニ。

已ニ行フ者。皆ハ。流一。等。從。八。從

三年。已ニ傷スル者。皆ハ。絞。從。八。

加功スル者。加功セサル者。並ニ

凡人ト同ク罪ヲ論ス。已ニ殺ス

者ハ。皆斬。若シ五等親以上ノ尊

長。卑幼ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ

者ハ。各關毆律內。尊長故殺。卑幼

律ニ依リ。二。等。ヲ減ス。已ニ傷ス

ル者ハ。一。等。ヲ減ス。已ニ殺ス者

ハ。故殺律ニ依ル。

謀殺家長

凡奴婢。家長ヲ謀殺スルニ。已ニ

行フ者ハ。流三等。已ニ傷スル者

ハ。絞。已ニ殺ス者ハ。皆斬。

若シ雇人。家長ヲ謀殺スルニ。已

ニ行フ者ハ。流一。等。已ニ傷スル

者ハ。絞。已ニ殺ス者ハ。皆斬。

殺死姦夫

凡妻妾。人ト姦通スルニ。本夫。姦

所ニ於テ。親ヲ姦夫。姦婦ヲ獲ル

即時ニ殺ス者ハ。論スルヲ勿レ。

若シ本夫。止テ姦夫ヲ殺ス者ハ。

姦婦ハ。和姦律ニ依リ。罪ヲ科ス。

止テ姦婦ヲ殺ス者ハ。姦夫ハ。流

改正

十年四月廿六日第四十號御布告。謀

殺祖父母父母條例第二項內

若シ五等親以上ノ尊長。卑幼ヲ謀殺

スルニ。已ニ行フ者ハ。各關毆律內

尊長故殺。卑幼律ニ依リ。二。等。ヲ減

スル律ヲ改メ。減五等ニ從フ。

殺死姦夫條例

第百六十九條 凡姦夫。自ラ本夫ヲ

殺ス者ハ。姦婦。情ヲ知ラスト雖モ

絞。改テ。懲役終身。

第百七十條 凡姦婦。自ラ本夫ヲ殺

改定律例。人命律上

新律綱領。



ス者。姦夫。果シテ情ヲ知ラザレハ。  
止テ姦罪ヲ科ス。

第百七十一條 凡姦婦。過テ悔ヒ拒

絶スル後。姦夫。姦好ノ續キ難キヲ

情リ。本夫。及ヒ祖父母。父母ヲ殺死

スル者。拒絶ノ證據。明白ナレハ。婦

女ハ。止テ姦罪ヲ科ス。

第百七十二條 凡姦夫。姦婦。姦所ニ

於テ。本夫ニ撞見セラレ。直ニ脱逃

スルニ。本夫。即時逐テ門外ニ至リ

殺ヌ者ハ。姦所ト同シ。若シ姦所及

ヒ。即時ニ非スシテ。姦夫ヲ殺傷ス

ル者。審判スルニ。姦情確實ナレハ。

關殺傷ニ。二等ヲ減ス。止テ姦婦ヲ

殺傷スル者。折傷以止ハ。關殺傷ニ

五等ヲ減ス。姦夫ハ。和姦本條ニ依

ル。若シ姦情曖昧確據ナクシテ。男

婦ヲ殺傷スル者ハ。各謀故關殺傷

本條ニ依ル。謀殺。故殺。關殺ノ控  
通リニ行フテ云フ

殺一家三人條例

第百七十三條 凡一家ノ死罪ニ非

サル。三人以上ヲ殺ス。稱スルハ。

雇人ト雖モ。同居ニ係ル者。及ヒ同

居セスト雖モ。父子兄弟等。至親ニ

其妻妾。姦ニ因リ。同謀シテ。本夫  
ヲ殺ス者ハ。最。姦夫ハ。斬。若シ姦  
夫。自ラ本夫ヲ殺ス者ハ。姦婦情  
ヲ知ラスト雖モ。絞。

殺一家三人

凡謀殺。故殺。放火。行盜シテ。一家

ノ死罪ニ非サル。三人以上ヲ殺

シ。若クハ八人ヲ支解スル者ハ。皆

凡魔魅ヲ行ヒ。符書ヲ造リ。呪詛

シテ。人ヲ殺サセト欲スル者ハ。

各謀殺ヲ以テ論ス。止テ人ヲ疾



係ル者。皆是ナリ。

毒藥殺人條例

第百七十四條 凡人ヲ殺スノ心ナ

シト雖モ毒藥ヲ用ヒテ。故ラニ疾

苦セシムル者ハ懲役八十日。

闘毆及故殺條例

第百七十五條 凡闘毆人ヲ殺ス者

ハ絞殺ニ懲役終身。

第百七十六條 凡亂毆シテ人ヲ殺

シ。傷ノ先後輕重ヲ知ラサル者。原

謀アレハ原謀者ヲ懲役終身ニ處

若セシメント欲スル者ハ謀殺

已行未傷ニ二等ヲ減ス。

毒藥殺人

凡毒藥ヲ用ヒテ人ヲ殺シ及ヒ

藥シテ死セサル者ハ各謀殺律

ニ依テ論ス。買テ未タ用ヒサル

者ハ徒二年半。情ヲ知テ毒藥ヲ

賣ル者ハ同罪。罪流三等ニ止ル。

知ラサル者ハ坐セズ。

闘毆及故殺

凡闘毆シテ人ヲ殺ス者ハ手足

他物金刃ヲ用ハス。並ニ絞殺

スル者ハ斬

若シ同ク謀リ共ニ人ヲ毆テ。因

テ死ニ致スニ手ヲ下シ致命傷

ヲ爲ヌ者ハ絞殺謀者ハ共ニ毆

ト否ヲ問ハス。流三等餘人ハ手

ヲ下スト雖モ致命傷ヲ爲サハ

ル者ハ杖九十

ス。若シ原謀共ニ毆サレハ初闘者

ヲ懲役終身ニ處シ。原謀者ハ懲役

十年。餘人ハ並ニ懲役九十日。

第百七十七條 凡亂毆シテ人ヲ殺

シ。先後輕重ヲ知ラサル者。若シハ

原謀同夥共ニ毆テ。各致命重傷ヲ

爲ヌ者。一人實ニ罪ヲ畏レテ自盡

シ。及ヒ已ニ獄ニ在リ。或ハ押解中

途ニ在リテ。病斃スル者アレハ一

等ヲ減シ。懲役十年ニ處ス。

第百七十八條 凡同謀共ニ人ヲ毆

テ。傷皆致命ニシテ。即時身死スレ

改定條例。人命律上

(八)

新律綱領。人命律上



ハ後、後手乎下位。傷成或又重キ者ヲ懲役終身ニ處ス。若シ時日ヲ經テ身死スルニ至ル者ハ何傷死ニ致ス。テテ究明シテ傷ヲ成ス。テ重キ者ヲ懲役終身ニ處ス。若シ原謀共ニ毆テ。亦致命重傷ヲ爲ス。ニ係ラハ。原謀者ヲ懲役終身ニ處ス。第百七十九條 凡人木爭論鬪毆シ。臨時殺意ヲ起シ。人ヲ殺ス者ハ。故殺ニ坐ス。若シ爭鬪ノ後。彼ホ餘怒ヲ尋キ。追逐シテ人ヲ殺シ。及ヒ爭鬪ニ因ルニ非ス。ト雖モ。臨時殺意

ヲ起シテ殺ス者。預謀ノ顯跡ナキハ。並ニ故殺ヲ以テ論ス。其傷シテ死セサル者ハ。仍ホ鬪毆傷ニ依ル。屏去服食條例 第百八十條 凡人ノ服用。飲食ノ物ヲ解法シ。若クハ物ヲ以テ人ノ耳鼻及ヒ孔竅中ニ置キ。因テ死ニ至ル者ハ。絞。改テ懲役終身。若シ謀故ノ情アル者ハ。各本律ニ依ル。 ○モノロミテ殺スト出來心ニテ殺ス心入レアル者ハ。謀殺律ト故殺律ニアテ科ス。

凡ノ服用。飲食ノ物ヲ解法シ。若クハ物ヲ以テ人ノ耳鼻及ヒ孔竅中ニ置キ。傷損スル所アル者ハ。各鬪毆傷ニ一等ヲ加ヘ。罪流三等ニ止ル。因テ死ニ至ル者ハ。絞。若シ故カラニ。蛇蝎毒蟲ヲ用ヒ。人ヲ咬傷セシムル者ハ。鬪毆傷ニ一等ヲ加ヘ。罪流三等ニ止ル。死ニ致ス者ハ。斬。

改定律例〇人命律上 (八五) 新律綱領〇人命律上



改定律例

人命律下

新律綱領

人命律

戲殺傷人

凡戲ニ因テ人ヲ殺傷スル者ハ。關殺傷ニ二等ヲ減ス。若シ高ニ乘リ危ヲ履ミ。因テ相戲レ殺傷スル者ハ。一等ヲ減ス。

誤殺傍人

凡關殺シテ誤テ傍人ヲ殺傷スル者ハ。關殺傷ニ準シテ論ス。罪流三等ニ止ル。其謀殺故殺ヲ行ヒ。誤テ傍人ヲ殺ス者ハ。故殺ヲ以テ論シ。傷スル者ハ。仍ホ關殺ヲ以テ論ス。

詐稱殺人

凡津河水深ク泥潭ナルヲ平淺ト詐稱シ。及ヒ橋梁淺船ヲ溺ナシ。或ハ人ヲ溺渡セ

シメ。因テ陷溺死傷ニ致ス者ハ。關殺傷ヲ以テ論ス

過失殺傷人

凡過失ニテ人ヲ殺傷スル者ハ。各關殺傷ニ準シ。法ニ依リ。收贖シテ。其家ニ給付ス。

過失殺傷人條例 (アヤチニテ人ヲ殺シ或ハ傷ク)

第百八十一條 凡過失殺傷收贖ハ

官吏華士族平民ヲ分タス一體ニ

本圖ニ照シ。違シテ。其家ニ給ス。

第百八十二條 凡一人二人ヲ過失

殺スル者ハ。例ニ照シ。金八十圓ヲ

收贖シテ。均シク二人ニ分給シ。二

人一人ヲ過失殺スル者ハ。金四十

圓ヲ二人ニ分給シテ。一人ニ給付

ス。一人二人ヲ傷シ。二人一人ヲ傷

スル者モ亦此例ニ依ル。

毆死有罪妻妾條例

改定律例。人命律下

(九十)

毆死有罪妻妾

凡妻妾夫ノ祖父母父母ヲ毆罵

新律綱領。人命律下



第百八十三條	凡妻妾夫ノ祖父母父母ヲ殺ス者ハ杖九十。改テ懲役一年。其傷スルニ因テ擯ニ殺ス者ハ懲役九十日。	スルニ因テ夫官ニ告ケス。擯ニ殺ス者ハ杖九十。祖父母父母ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐ス。
改正殺雇人律	原殺奴	殺奴婢
第百八十四條	凡雇人死罪ヲ犯スニ家長官ニ告ケヌ。擯ニ殺ス者ハ懲役八十日。	凡奴婢死罪ヲ犯スニ家長官ニ告ケヌ。擯ニ殺ス者ハ杖七十。若シ罪ナキニ毆殺スル者ハ徒三年。故殺スル者ハ流二等。
第百八十五條	凡家長雇人ヲ毆テ死ニ至ル者ハ流一等。改テ懲役十年。	若シ家長雇人ヲ毆ツハ折傷ニ非ルハ論スルヲ勿レ折傷以上ハ凡人ニ三等ヲ減ス。因テ死ニ至ル者ハ流一等。故殺スル者ハ絞。

將屍圖賴條例	第百八十六條	凡雇人巳ニ死スル家長ノ屍ヲ將テ人ニ圖賴スル者ハ懲殺百日。	將死圖賴
改正弓銃殺傷人律	第百八十七條	凡故テ弓銃砲ヲ放テ及ヒ劍刃ヲ擡ク者ハ人ヲ傷セスト雖モ杖六十。改テ懲役三十日。傷スル者ハ凡圖毆傷ヲ以テ改定律例ノ人命律下	若シ子孫及ヒ奴婢巳ニ死スル祖父母父母及ヒ家長ノ屍ヲ將テ人ニ圖賴スル者ハ徒三年。二等親ノ尊長ノ屍ヲ將テスル者ハ徒二年。三等親以下ノ尊長ハ各一等ヲ減ス。若シ尊長巳ニ死スル卑幼及ヒ他人ノ屍ヲ將テ人ニ圖賴スル者ハ杖八十。其官ニ告ル者ハ誣告律ニ依テ罪ヲ論ス。因テ財物ヲ詐リ取ル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シ重キニ從テ之ヲ科ス。
改定律例ノ人命律下	(九三)	新律綱領ノ人命律下	



論ス。因テ死ニ致ス者ハ。絞。改テ懲  
投終身。

第百八十八條

凡曠野無人ノ地ニ

於テ故ナク。弓銃ヲ放テ。因テ人ヲ  
殺傷スル者ハ。過失殺傷ヲ以テ論  
ス。

第百八十九條

凡弓銃ヲ放テ。及ヒ

劍刃ヲ挺ク者。華士族ハ。破廉耻甚  
キ以テ論スル律ヲ改メ。一體ニ  
刑ニ處ス。

車馬殺傷人條例

第百九十條

凡深山曠野。猛獸ノ往

弓銃殺傷人

凡故ナク。弓銃銃砲ヲ放テ。及ヒ  
劍刃ヲ挺ク者ハ。人ヲ傷セスト  
雖モ。杖六十。傷スル者ハ。凡關傳  
ヲ以テ論ス。因テ死ニ致ス者ハ。  
絞。士族卒ハ。破廉耻甚者ヲ以テ  
論ス。

車馬殺傷人

凡故ナク。街市ニ車馬ヲ馳驅シ。  
因テ人ヲ傷スル者ハ。凡關傳ニ

來スル處ニ於テ。腕穿ヲ穿作シ。及  
ヒ。齒牙ヲ咬傷シテ。瘡。及ヒ。抹眉  
素ヲ立サル者ハ。懲役四十日。以テ

人ヲ傷スル者ハ。關國傷ニ四等ヲ  
減ス。減シテ本罪ヨリ輕キ者ハ。本  
罪ニ依テ論シ。死ニ致ス者ハ。懲役  
三年。仍ホ理葬金二十五圓ヲ追シ

テ死者ノ家ニ給付シ。若シ深山曠  
野ニ非スシテ。人ヲ殺傷スル者ハ。  
車馬殺傷人律ニ依ル。

第百九十一條

凡竊弓。人ヲ殺ス者

例ニ依リ。罪ヲ科スト雖モ。貪圖ニ  
改定條例。人命律下 (九十三)

一等ヲ減ス。死ニ致ス者ハ。流三  
等。  
若シ馬驚逸シ。或ハ公務ノ急速  
ニ因リ。馳驅シテ。人ヲ殺傷スル  
者ハ。過失ヲ以テ論シ。法ニ依リ  
收購シテ。其家ニ給付ス

庸醫殺傷人

凡庸醫。鍼藥ヲ用ヒ。誤テ本方ニ  
依ラヌ。因テ死ニ致ス者ハ。過失  
殺ヲ以テ論シ。法ニ依リ。收購シ  
テ。其家ニ給付シ。醫ヲ行フ丁  
ヲ許サヌ。

若シ故ヤラニ本方ニ違ヒ。疾病  
ヲ許療シテ。財物ヲ取ル者ハ。賊  
ニ計ヘ。竊盜ニ準シテ論ス。因テ  
死ニ致シ。及ヒ車ニ因テ。故サラ  
ニ業ヲ用ヒ。人ヲ殺ス者ハ。斬。

新律細領。人命律下



シテ埋葬金ヲ追スル丁能ハサレ	ハ。其雇工賃ノ全數ヲ額置シ。食費	ヲ除キ餘ル所ノ雇賃金二十五圓	ニ滿レハ死者ノ家ニ給シ。仍ホ役	限ハ本法ヲ盡ス。○役限下ハ懲役ノ	埋葬金ハ遺シタリ年限通リ終	メル也	瘋癲殺人條例	第百九十二條 凡瘋癲人。人ヲ殺シ。	埋葬金二十五圓ヲ追スル者。改テ。	過失殺收贖例ニ照シ。四十圓ヲ追	シテ死者ノ家ニ給付ス。其人ヲ傷						
瘋癲致死	凡戸籍。田名。錢債等ノ事ニ因テ。	人ヲ威逼シテ。自死ニ致ス者ハ。	杖一百。若シ官吏公使人等。公務	ニ因ルニ非スシテ。平民ヲ威逼	シ。因テ自死ニ致ス者モ。罪同。並	ニ埋葬金二十五圓ヲ追給ス。	若シ毒ヲ行ヒ。益ヲ為スニ因テ。	人ヲ威逼シテ。自死ニ致ス者ハ。	毒ノ成否ヲ論セス。財ノ得否ヲ	問ハス。並ニ斬。	瘋癲殺人	凡瘋癲人。人ヲ殺ス者ハ。終身劓	劓。仍ホ埋葬金二十五兩ヲ追取	シ。死者ノ家ニ給付ス。若シ二命	以上ヲ連殺スル者ハ。較。其親屬。	者中嚴ナラスシテ。他人ヲ殺死	スルニ致ス者ハ。杖九十。若シ瘋

スル者ハ。並ニ過失傷收贖例ニ照	シ。遺シテ傷者ニ給シ。醫藥ノ費ト	ス。	第百九十三條 凡瘋癲人。二命以上	ヲ連殺スル者ハ。杖改テ。鎖頸終身	第百九十四條 凡瘋癲人。祖父母。父	母ヲ殺ス者ハ。鎖頸終身。	第百九十五條 凡瘋癲人。人ヲ殺ス	者ハ。鎖頸終身ニ處スト雖モ。若シ	果シテ。痊愈スレハ。親屬鄰佑ノ保	證ヲ取リ。懲役五年ニ改正シ。服滿	テ放還ス。	改定條例○人命律下
瘋癲殺人	○忽然瘋癲ヲ發シ人ヲ殺	シ。後數月ヲ経テ平愈ス	ル者アリ過失傷條例前	ニ照シ收贖申付放免可	然ヤ	○七年二月二日伺之通	○奈良縣何瘋癲人子孫ヲ	殺ス者ハ限期ナク其家	ニ鎖頸シ果シテ全愈ス	レハ親屬隣佑ノ證ヲ取	リ可放免ヤ	○八年一月九日伺之通

改定條例○人命律下 一九三三

新律條例○人命律下



第百九十六條 凡瘋癩人自殺ヲ致  
 又ニ屠刀ハ失禁スル者ハ懲役ニ  
 十日若シ人ヲ傷スルニ至ラレム  
 ル者ハ懲役四十日  
 第百九十七條 凡瘋癩人ノ殺又  
 者ハ獨會ニシテ親屬ノ保管ス  
 ル者ナケレハ鎖鑰ヲ禁櫃ニ換  
 埋葬金ヲ進呈ス  
 謀同死條例  
 第百九十八條 凡法主妻婦同ク謀  
 リ墮胎スルニ妻婦身死スル者姦  
 夫ハ流三等改テ懲役三年

謀同死  
 凡姦夫妻婦同死ヲ商謀スルニ  
 姦婦已ニ死シ姦夫未タ死セズ  
 姦夫已ニ死シ姦婦未タ死セズ  
 若シ同ク謀リ姦ヲ用ヒテ墮胎  
 スルニ姦婦身死スル者姦夫ハ  
 流三等  
 私和人命  
 凡祖父母父母及セ夫若クハ家  
 長人ニ殺サレテ子孫姦姦及ヒ  
 姦親私和スル者ハ從三年二等  
 親ノ姦姦人ニ殺サレ私和スル  
 者ハ從二年三等親以下各一等  
 ヲ減減ス  
 其身切人ニ殺サレテ姦親私和  
 スル者ハ各等親ニ依テ身切ノ  
 罪ニ一等ヲ減ス若シ姦姦子孫  
 及ヒ子孫ノ姦姦姦人ニ殺サレ  
 祖父母父母丈夫妻姦私和スル者  
 ハ杖八十財ヲ受ル者ハ從二  
 計ハ竊盜ニ準テ重キニ從テ  
 之ヲ科ス常人他人ノ姦メニ人  
 命ヲ私和スル者ハ杖六十財ヲ

第百九十九條 凡姦夫姦婦同死ヲ  
 謀リ傷スト雖モ人ニ相殺セラレ  
 未タ死セサル者ハ關毆傷ニ一等  
 ヲ減ス關毆傷トハ門毆傷内人ニ傷ツク  
 ヲ減ス  
 私和人命條例  
 第二百條 凡家長人ニ殺サレ雇人  
 私和スル者ハ懲役百日若シ雇人  
 人ニ殺サレ家長私和スル者ハ懲  
 役七十日 私和トハ私ニ内濟スルヲ云フ

新律綱例ノ人命律下  
 改定律例ノ人命律下  
 (一九四)



移地界内死屍條例

第二百一條 凡移地界内死屍ヲ見テ指

擧グ見ハス者ハ懲役一年已ニ開

テ屍ヲ見ハス者ハ懲役三年屍ヲ

殘留スル者ハ懲役五年

第二百二條 凡地界内ニ死屍アル

ヲ輒シ水中ニ棄ルト雖モ未タ屍

ヲ失ハサル者律ニ照レテ一等ヲ

減シ懲役九十日

第二百三條 凡子孫ノ死屍ヲ棄ル

者ハ懲役七十日

受ル者ハ賊ニ計一枉法ニ準ジ

重キニ從テ之ヲ科ス

移地界内死屍

凡地界内ニ死アルヲ里長地室

郡府人官司ニ申報セズ輒シ地

所ニ移シ及ヒ埋藏スル者ハ杖

七十水中ニ棄ル者ハ杖一百因

テ衣服ヲ盜取スル者ハ賊ニ計

ハ竊盜ニ準ジ重キニ從テ論ス

罪流三等ニ止ル

宮崎縣同慶死ニ係ル屍

私埋ニ埋葬シテ病死

前ル者ハ私埋ニ埋葬ス

ルノ律ト上ニ告ルニ詔

ヲ受テ以テセサルノ律

トニ照ラレ重ニ從テ處

斷可杜ヤ

七年三月廿三日何之通

八年一月十七日福嶋縣

同ノ指令喪死ノ者ヲ病

死ト指シ置キ私埋ニ埋

葬ナスル者告上不實ヲ

以テ論セズ例第二百四

條ニ依テ罪ヲ科ス

同行知有謀害

凡同伴人ヲ謀害セント欲スル

ヲ知テ即チ阻當救護セズ及ヒ

新律綱領〇人命律下

ノ檢視ヲ經ルニ非レバ私埋ニ埋

葬スルヲ禁メ違フ者ハ懲役

四十日

第二百五條 凡人ヲ押解シ中途ニ

在リテ病弊スルヲ輒シ棄去ル者

ハ移地界内死屍律ニ一等ヲ加ヘ

懲役八十日

第二百六條 凡地界内ニ遺屍アリ

及ヒ病ニ困リテ皆倒スルヲ輒シ

他所ニ移ス者ハ懲役七十日

同行知有謀害

第二百七條 凡同行謀害アルトテ

改定律例〇人命律下

死ニ至



知テ阻當救護トスト雖モ。已ニ害  
 ヲサレハ。後首告ヌル者ハ。其罪ヲ  
 免ス。遺棄トシテ人ヲ救護セントスル者ヲ知  
 レハ。救護トシテ人ヲ救護セントスル者ヲ知  
 ハ内申出シテ阻當救護セザル科ト免ス

改定律例

關毆律

關毆條例 (準ビ打合ナリ)

第二百八條 凡關毆成傷ト称スル  
 ハ。毆ツ所ノ皮膚。骨節。赤ニシテ。腫  
 起スル者ヲ謂フ。刀ヲ持シ。人ヲ傷

害セラレハ。後官司ニ首告セ  
 ル者ハ。杖九十。

新律綱領

關毆律

凡關毆手足ヲ以テ人ヲ毆チ。傷  
 ヲ成サレハ。者ハ。皆二十。傷ヲ成  
 シ。及ヒ死石。腫痛等ヲ以テ人ヲ  
 毆チ。傷ヲ成サレハ。者ハ。皆三十。傷ヲ  
 成ヌ者ハ。皆四十。血。耳目中ヨリ  
 出テ。及ヒ内損シテ吐血スル者ハ。杖八十

スト雖モ。其背ヲ以テ毆チ。刀ヲ  
 用ヒサレハ。仍ホ腫痛ト同ク論ス。  
 第二百九條 凡關毆。方寸以上ヲ  
 抜ク者ハ。懲役四十日。若レ一時昏  
 絶セシムル者ハ。懲役八十日。  
 第二百十條 凡二人。共二人ヲ毆チ。  
 各一目ヲ瞎シ。盲ニ至ラシムルニ。  
 先キニ毆ツ者ハ。廢疾律ニ依リ懲  
 役三年。後ニ毆ツ者ハ。寫疾律ニ依  
 リ。懲役十年。仍ホ養贖金ヲ。二八ニ  
 分遣ス。若シ原謀者アレハ。假ニ毆  
 ツト。否トテ問ハヌ。後ニ毆ツ者ニ

改定律例。關毆律

新律綱領。關毆律  
 人ノ一指一齒ヲ折リ。一目ヲ眇  
 ニシ。耳鼻ヲ抉毀シ。若クハ骨ヲ  
 破リ。及ヒ湯火ヲ以テ。人ヲ傷ヌ  
 ル者ハ。杖一百。雜物ヲ以テ。口鼻  
 内ニ灌入スル者モ。罪亦同。二指  
 三齒以上ヲ折リ。及ヒ髮ヲ斃ス  
 ル者ハ。徒一年。  
 人ノ肋ヲ折リ。兩目ヲ眇ニシ。及  
 ヒ刃傷ヌル者ハ。徒二年  
 人ノ肢體ヲ折毀シ。及ヒ一目ヲ  
 瞎シ。廢疾ニ致ヌ。者ハ。徒三年  
 兩目ヲ瞎シ。兩肢ヲ折リ。及ヒ骨  
 断アルヲ毆チ。因テ寫疾ニ至ラ  
 ス。若クハ舌ヲ断チ。陰陽ヲ毀  
 敗スル者ハ。流三千里。沒收金二十  
 兩。遺給シテ。養贖セシム  
 其同謀共毆シテ。人ヲ傷ヌル者  
 ハ。各手ヲ下シ。重傷ヲ成ヌ者ヲ

新律綱領。關毆律



一 等ヲ減ス。	第二百一十一條 凡婦女ヲ毆キ、墮胎セシムル者ハ、懲役二年。	以テ重罪ニ至レ、原謀者ハ、手ヲ下メト雖モ、傷輕ケレハ、一等ヲ減ス。
第二百一十二條 凡關殿、人ヲ殺スニ、後ニ手ヲ下シテ、理直ナル者ハ、律ニ照シテ、懲役十年ニ科シ、仍ホ、事情原諒ス可キ者ハ、又一等ヲ減ス。	若レ關ニ因テ、互ニ相毆傷メル者ハ、各其傷ノ輕重ヲ驗シテ、罪ヲ定ム、後ニ手ヲ下シテ、理直ナル者ハ、本罪ニ、二等ヲ減ス、傷、殊ニ至ラシムル者ハ、仍ホ、金二十兩ヲ追給シテ、養贖セシム、死ニ至ル者ハ、流三等、埋葬金二十五兩ヲ追給ス、兄姉伯叔ヲ毆ツ者ハ、本律ニ依リ、後ニ手ヲ下シテ、理直ナル者モ、減セス。	
第二百一十三條 凡關殿、後ニ手ヲ下シテ、理直ナル者ハ、減等シテ、罪ヲ科シ、仍ホ、養贖、埋葬金兩ヲ追給スル律ヲ改メ、止メ、其罪ヲ科シテ、金兩ヲ追セズ。		

第二百一十四條 凡關殿、人ヲ傷スルニ、鐵刀、煤切等ヲ用ヒ、傷輕キ者ハ、懲役七十日、仍ホ、輕キ者ハ、三等ヲ減ス。	宮殿内忿争條例 凡宮殿内ニ於テ、忿争スル者ハ、答五十、相毆ツ者ハ、杖二百、折傷以上ハ、凡關傷ニ、二等ヲ加フ、罪、流三等ニ止ル、刀ヲ以テ相向フ者ハ、流一等。
第二百一十五條 凡皇城門ニ、擅入スル者ハ、懲役五十日、宮殿ニ、擅入スル者ハ、懲役百日、以上六段ノ科也。	毆本屬長官 凡吏卒軍民、本屬ノ勅任長官、毆ツ者ハ、流一等、傷スル者ハ、流三等、折傷以上ハ、杖、其長官ニ非サル、勅任官ヲ毆ツ者ハ、徒二年半。
第二百一十六條 凡勅任官ヲ毆ツ者ハ、懲役五年、傷スル者ハ、懲役十年。	改定律例○關殿律 元十七 新律綱領○關殿律



折傷以上ハ。絞。

若シ委任官ヲ毆ツ者ハ。懲役二年。傷スル者ハ。懲役三年。折傷以上ハ。懲役七年。癡疾ハ。絞。

若シ判任官ヲ毆ツ者ハ。懲役九十日。傷スル者ハ。懲役一年。折傷以上ハ。懲役三年。癡疾ハ。懲役五年。癡疾ハ。絞。死ニ至ル者ハ。斬。

毆官吏條例

第二百十七條 凡判任官。勅任官ヲ毆ツ者ハ。懲役九十日。傷スル者ハ。懲役一年。折傷以上ハ。懲役五年。折傷以上ハ。懲役五年。

傷スル者ハ。流一等。折傷以上ハ。流三等。癡疾ハ。絞。

若シ委任長官ヲ毆ツ者ハ。徒二年。折傷以上ハ。徒三年。折傷以上ハ。流二等。癡疾ハ。絞。其長官ニ非ル。委任官ヲ毆ツ者ハ。徒一年。傷スル者ハ。徒二年。折傷以上ハ。流一等。癡疾ハ。流二等。癡疾ハ。絞。若シ判任長官ヲ毆ツ者ハ。杖九十。傷スル者ハ。徒一年。折傷以上ハ。徒三年。癡疾ハ。流一等。癡疾ハ。絞。死ニ至ル者ハ。並ニ斬。其本屬ニ非ル者ハ。各二等ヲ減ス。減シテ。罪凡關ヨリ輕ク。若クハ等レキ者ハ。凡關ニ。一等ヲ加ヘテ死ニスル。

拒毆官司人

凡官司人ヲ所屬ニ差遣シ。錢糧ヲ追徴シ。公庫ニ拘禁スルニ。抗拒多服者。杖八十。毆ツ者ハ。杖八十。内損以上ハ。各凡關傷ニ。二等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。死ニ至ル者ハ。斬。

毆受業師

凡文武百工技藝ノ人。受業師ヲ毆ツ者ハ。凡關傷ニ。二等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。死ニ至ル者ハ。斬。

威力制縛

凡威力ヲ以テ。人ヲ制縛シ。及ヒ

新律綱領 ○ 關毆律

癡疾ハ。絞。若シ委任官ヲ毆ツ者ハ。懲役七十日。傷スル者ハ。懲役百日。折傷以上ハ。懲役三年。癡疾ハ。懲役十年。癡疾ハ。絞。死ニ至ル者ハ。並ニ斬。並ニハ。勅任ニテモ。委任ニテモト云フ。

第二百十八條 凡委任官。勅任官ヲ毆ツ者ハ。判任官。委任官ヲ毆ツト罪同シ。其勅任官。委任官ヲ毆テ。及ヒ委任官。判任官ヲ毆ツ者ハ。並ニ凡關毆ヲ以テ論ス。凡人ノ關毆律ヲ

毆受業師條例

第二百十九條 凡受業師ヲ毆テ。死

改定律例 ○ 關毆律

五十五



二至ル者ハ。斬。改テ。懲役終身  
○謀殺ニモ故殺ニテモナク一十打千毆キ  
タルニ思ヒヨラヌ死去セシムルヲ云フ

毆家長條例

第二百二十條 凡雇人家長ヲ毆チ  
篤疾及ヒ死ニ至ル者ハ。絞。斬ニ處  
スル律ヲ改メ。俱ニ懲役終身。  
第二百二十一條 凡雇人家長ノ

私家ニ於テ。拷打監禁スル者ハ。  
有傷無傷ヲ問ハス。並ニ杖一百。  
折傷以上ハ。各凡鬪傷ニ。二等ヲ  
加ヘ。罪流三等ニ。止ル。死ニ致ス  
者ハ絞。  
若レ威カヲ以テ。他人ヲ指使シ。  
毆打セシメ。死傷ニ致ス者ハ並  
ニ指使人ヲ以テ首ト爲レ。下手  
ノ人ハ。從ト爲レテ論シ。一等ヲ  
減ス。

毆家長

凡奴婢。家長ヲ毆ツ者ハ。皆流一  
等。傷スル者ハ。皆流三等。折傷ス  
ル者ハ。皆絞。死ニ至ル者ハ。皆斬  
過失傷スル者ハ。徒三年。過失殺  
スル者ハ。流三等。從流。並ニ收贖  
スルヲ聽サス。  
若シ雇人家長ヲ毆ツ者ハ。徒二

令ニ違犯スルニ。督責シテ。過  
死ニ致ス者ハ。皆五十。改テ懲役七  
十日。

毆夫條例

第二百二十二條 凡妻ヲ毆チ  
篤疾ニ至ル者ハ。絞ニ入ル律  
ヲ改メ。俱ニ懲役終身。若シ正妻ヲ  
毆ツ者モ。亦同シ。メカケカ本妻ヲ  
ウツモ同シ科也

年傷スル者ハ。徒三年。折傷スル  
者ハ。流三等。篤疾ニ至ル者ハ。絞  
死ニ至ル者ハ。斬。過失殺スル者  
ハ。各常律ニ依テ收贖スルヲ  
聽ス。  
若シ奴婢。雇人家長ヲ令ニ違犯スル  
ニ。督責シテ。過失殺スル者ハ。皆五  
十。過失殺スル者ハ。各論スルヲ  
勿レ

毆夫

凡妻夫ヲ毆ツ者ハ。杖一百。折傷  
以上ハ。凡鬪傷ニ。三等ヲ加フ。夫  
ノ親ヲ告ルヲ待テ。乃坐ス。篤疾  
ニ至ル者ハ。絞。死ニ至ル者ハ。斬  
故殺スル者ハ。絞。  
若シ妾。夫及ヒ正妻ヲ毆ツ者ハ  
妻。夫ヲ毆ツ者ニ。各一等ヲ加ヘ  
加ヘテ。死ニ入ル。死ニ至ル者ハ。



毆傷妻妾條例

第二百二十三條 凡夫妻ヲ毆テ死

ニ至ル者ハ絞改メ懲役終身其故

殺スル者ハ絞若シ夫妻ノ父母ヲ

毆テ篤疾及ヒ死ニ至ル者ハ絞斬

ニ處スル律ヲ改テ懲役終身其故

殺スル者ハ斬改テ死ニ至ル者ハ絞

ルヲ云フ

毆三等親以下尊長條例

第二百二十四條 凡卑幼三等親ノ

尊長ヲ毆テ篤疾ハ絞改テ懲役終

身死ニ至ル者ハ斬改テ絞其故殺

スル者ハ斬若シ尊長三等親以下

ノ卑幼ヲ毆テ死ニ至ル者ハ絞亦

改テ懲役終身其故殺スル者ハ絞

第二百二十五條 凡卑幼三等親以

下ノ尊長ヲ過失殺傷スル者ハ並

ニ凡人過失殺傷ヲ以テ論シ改贖

スルヲ聽ス

毆二等親尊長條例

第二百二十六條 凡卑幼二等親ノ

尊長及ヒ外祖父母ヲ過失殺傷ス

改定律例ノ關毆律

(百)

斬故殺スル者ハ斬

毆傷妻妾

凡夫妻ヲ毆ツル折傷ニ非ルハ

論スルヲ勿レ折傷以上ハ凡人

ニ二等ヲ減ス妻ノ親ヲ告ルヲ

待テ乃坐ス死ニ至ル者ハ絞故

殺スル者罪同若シ毆ツニ折傷

以上ハ妻ヲ毆傷スルニ二等ヲ

減ス死ニ至ル者ハ流一等

若シ妻妾ヲ毆傷スルハ夫妻ヲ

毆傷スルト罪同若シ親ヲ告ル

ヲ待テ乃坐ス過失殺スル者ハ

各論スルヲ勿レ

若シ夫妻ノ父母ヲ毆ツ者ハ杖

九十折傷以上ハ各凡關傷ニ一

等ヲ加ヘ篤疾ハ絞死ニ至ル者

ハ斬故殺スル者罪同

毆三等親以下尊長

凡卑幼三等親ノ尊長ヲ毆ツ者

ハ徒一年四等親ノ尊長ハ杖一

百折傷以上ハ凡關傷ニ一等ヲ

遞加ス篤疾ハ絞死ニ至ル者ハ

斬故殺スル者罪同

若シ尊長卑幼ヲ毆ツハ折傷ニ

非ルハ論スルヲ勿レ折傷以上

ハ五等親ノ卑幼ハ凡人ニ一等

ヲ減シ四等三等親ハ各一等遞

減ス死ニ至ル者ハ絞故殺スル

者罪同

毆二等親尊長

凡卑幼兄弟ヲ毆ツ者ハ徒二年

折傷スル者徒二年折傷スル者

ハ流二等廢疾ニ至ル者流三等

新律綱領ノ關毆律



ル者ハ。各本殺傷罪ニ二等ヲ減ス  
ル律ヲ改メ。殺ス者ハ。懲役三年。傷  
スル者ハ。懲役百日。並ニ收贖スル  
テヲ聽サス。

第二百二十七條 凡弟妹。兄弟ヲ毆  
テ。篤疾ニ至ル者ハ。絞改テ懲役終  
身。死ニ至ル者ハ。皆斬。改テ。皆絞。若  
シ姪。伯叔父。姑ヲ毆テ。及ヒ外孫。外  
祖父母ヲ毆テ。篤疾及ヒ死ニ至ル  
者。罪亦同。

毆祖父母父母條例

第二百二十八條 凡子孫。祖父母父

篤疾ニ至ル者ハ。絞。死ニ至ル者  
ハ。皆斬。故殺スル者ハ。皆斬。  
若シ姪。伯叔父。姑ヲ毆テ。及ヒ外  
孫。外祖父母ヲ毆テ。各一等ヲ  
加テ。瘖疾以上ハ。兄弟ヲ毆ツト  
罪同。

其過失。殺傷スル者ハ。各本殺傷  
罪ニ二等ヲ減シ。收贖スルヲ  
聽サス。  
若シ兄弟。弟妹ヲ毆殺シ。伯叔父  
姑。姪ヲ毆殺シ。外祖父母。外孫ヲ  
毆殺スル者ハ。徒三年。故殺スル  
者ハ。流二等。過失殺スル者ハ。各  
論スルヲ勿レ。

毆祖父母父母

凡子孫。祖父母父母ヲ毆テ。及ヒ  
妻。夫ノ祖父母父母ヲ毆ツ者

母ヲ毆テ。及ヒ妻。夫ノ祖父母父  
母ヲ毆ツ律ヲ改メ。毆ツ者ハ。懲役  
十年。傷スル者ハ。懲役終身。死ニ至  
ル者ハ。皆斬。故殺スル者ハ。皆過  
失殺スル者ハ。懲役三年。傷スル者  
ハ。懲役一年。並ニ收贖スルヲ聽  
サス。

第二百二十九條 凡繼母。前妻ノ子  
ヲ非理ニ毆打シテ。折傷以上ニ至  
ル者ハ。凡罰傷ニ三等ヲ減シ。死ニ  
至ル者ハ。懲役七年。

第二百三十條 凡子孫。故令ニ違犯

改定律例ノ毆祖律

(百二)

新律細條ノ毆祖律

ハ皆斬。殺ス者ハ。皆過失殺ス  
ル者ハ。流三等。傷スル者ハ。徒三  
年。並ニ收贖ヲ聽サス。若シ子孫  
ヲ故殺スル者ハ。徒三年。姪母ヲ  
殺ス。ハ一等ヲ加テ。繼母ハ。流三  
等。  
其子孫。祖父母父母ヲ毆罵シ。若  
クハ。故令ニ違犯シテ。祖父母父  
母督責シ。逕進ニ死ニ致シ。及ヒ  
過失殺スル者ハ。各論スルヲ勿



又ト雖モ祖父母父母非理ニ毆殺スル者懲役二年半	妻妾與夫親屬相毆條例	第二百三十一條 凡妻妾夫ノ二等親以下四等親以上ノ尊長ヲ毆キ死ニ至ル者ハ各斬改テ絞其故殺スル者ハ斬	妻妾與夫親屬相毆	凡妻妾夫ノ二等親以下四等親以上ノ尊長ヲ毆ツ者ハ夫ノ毆ツト同罪罪流三等親止ル死ニ至ル者ハ各斬故殺スル者ハ罪同
父祖被毆條例	第二百三十二條 凡祖父母父母人ニ殺サレ子孫擅ニ行兇人ヲ殺ス	父祖被毆	凡祖父母父母人ニ毆タレ子孫即時ニ救護シテ還ツテ行兇人ヲ毆ツハ折傷ニ非ルハ論スル	凡祖父母父母人ニ毆タレ子孫即時ニ救護シテ還ツテ行兇人ヲ毆ツハ折傷ニ非ルハ論スル

者ハ謀殺ヲ以テ論ス其即時ニ殺死スル者ハ論スルヲ勿レ	第二百三十三條 凡子孫祖父母父母同謀シテ共ト人ヲ毆キ若クハ祖父母父母人ト恣逞シ子孫ニ指令シテ毆打セシメ及ヒ人ト毆スルニ其子孫勢ヲ助ケテ共ニ毆ツ者ハ俱ニ常律ニ照シテ罪ヲ科シ救護還毆律ヲ用ヒズ	者ハ謀殺ヲ以テ論ス其即時ニ殺死スル者ハ論スルヲ勿レ	若クハ折傷以上ハ凡關傷ニ二等ヲ減ス死ニ至ル者ハ流三等若クハ祖父母父母人ニ殺サレ子孫擅ニ行兇人ヲ殺ス者ハ答五十其即時ニ殺死シ及ヒ會テ官ニ告ル者ハ論スルヲ勿レ	若クハ折傷以上ハ凡關傷ニ二等ヲ減ス死ニ至ル者ハ流三等若クハ祖父母父母人ニ殺サレ子孫擅ニ行兇人ヲ殺ス者ハ答五十其即時ニ殺死シ及ヒ會テ官ニ告ル者ハ論スルヲ勿レ
---------------------------	--	---------------------------	---	---

改定律例の關毆律

(百三)

新律綱領の關毆律



改定律例

罵詈律

罵官吏律 原屬本屬長官律

第二百三十四條 凡勅任官ヲ罵ル

者ハ懲役一年 委任官ヲ罵ル者ハ

懲役九十日 判任官ヲ罵ル者ハ懲

役六十日 並ニ親ヲ聞テ 乃坐ス

罵官吏條例

第二百三十五條 凡判任官 勅任官

罵ル者ハ懲役六十日 委任官ヲ罵

ル者ハ懲役四十日 並ニ親ヲ聞テ

乃坐ス

新律綱領

罵詈律

罵人

凡人ヲ罵ル者ハ笞一十至二相

罵ル者ハ各一十

罵本屬長官

凡吏卒軍民本屬ノ勅任長官ヲ

罵ル者ハ徒一年 委任長官ヲ罵

ル者ハ杖九十 判任長官ヲ罵ル

者ハ杖六十

其長官及ヒ本屬ニ非ル者ハ各

二等ヲ減ス 並ニ親ヲ聞テ 乃坐

ス

罵家長

凡叔母家長ヲ罵ル者ハ徒一年

凡家長長ヲ罵ル者ハ杖八十 並

ニ家長ノ親ヲ告ルヲ待テ 乃坐

ス

第二百三十六條 凡委任官 勅任官

ヲ罵ル者ハ判任官 委任官ヲ罵ル

ト 罪同シ 其勅任官 委任官ヲ罵リ

及ヒ委任官 判任官ヲ罵ル者ハ 並

ニ凡人罵詈ヲ以テ論ス

第二百三十七條 凡平民 本屬ノ戶

長ヲ罵ル者ハ 凡人罵詈ニ 一等ヲ

加ヘ 過卒ヲ罵ル者ハ 又一等ヲ加

ス

罵有服尊長

凡卑幼 四等親ノ尊長 及ヒ妻ノ

父母ヲ罵ル者ハ 笞五十 三等親

ノ尊長ハ 杖六十 若シ兄弟ヲ罵

ル者ハ 杖九十 伯叔父 姑 外祖父

母ハ 杖一百 若シ妻妾 夫ノ有服

尊長ヲ罵ル者ハ 夫ノ罵ルト 罪

同 並ニ尊長ノ親ヲ告ルヲ待テ

乃坐ス

○平民本屬ノ過戶長ヲ

罵ル者ハ 戶長ヲ罵ルト

同シク 凡人罵詈律ニ 一

等ヲ加ヘ 番人ヲ罵ル者

ハ 過卒ヲ罵ルト 同ク 又

一等ヲ加ヘ 律

○七年三月三日 何書通

改定律例 ○罵詈律

(百三)

新律綱領 ○罵詈律



屬祖父母父母條例

第二百三十八條 凡子孫祖父母父母  
母ヲ罵リ及ヒ妻妾夫ノ祖父母父  
母ヲ罵ル者ハ流三等ニ處スル律  
ヲ改メ並ニ懲役三年

屬祖父母父母

凡子孫祖父母父母ヲ罵リ及ヒ  
妻妾夫ノ祖父母父母ヲ罵ル者  
ハ並ニ流三等祖父母父母ノ親  
ヲ告ルヲ待テ乃坐ス

改定律例

受贓律 (マイナヒヲ受ル律)

官吏受賄條例

第二百四十二條 凡官吏枉法贓ヲ  
受ル者等内人ハ二百五十圓以上  
等外人ハ三百圓以上絞ニ處シ及  
ヒ不枉法贓等内人ハ三百圓以上  
絞ニ處スル律ヲ改メ並ニ懲役終  
身

增加

六年七月二十日  
第二百二十七號御布告

凡枉法不枉法ヲ以テ論シ及ヒ准シ  
テ論スル罪平民ハ等外人ト同ク

改定律例。受贓律

(百四)

新律綱領

受贓律

官吏受賄

凡官吏枉法不枉法ノ事ニ因テ  
財ヲ受ル者ハ贓ニ計ヘ之ヲ科  
ス等外人ハ各一等ヲ減ス  
若シ說事通賂ヌル者等内人ハ  
絞ヲ受ル人ニ一等ヲ減ス等外  
人ハ二等ヲ減ス罪徒一年半ニ  
止ル若シ別ニ財ヲ受ル者ハ枉  
法不枉法贓ニ計ヘ重キニ從テ  
論ス  
枉法ノ贓各主アル者通算シテ  
全科ス  
一兩以下杖六十  
一兩以上杖七十  
一十兩以上杖八十  
二十兩以上杖九十  
新律綱領。受贓律



罪ヲ科ス。以テトハ莫ニ其律ヲ犯セルニ  
 准ストハ其罪トウシテ違ヒアルモ其  
 罪トシテ論定シテ罰トナリ

三十兩以上。杖一百
四十兩以上。徒一年
五十兩以上。徒一年半
六十兩以上。徒二年
七十兩以上。徒二年半
八十兩以上。徒三年
九十兩以上。流一等
一百兩以上。流二等
一百一十兩以上。流三等
二百五十兩以上。絞
等外人ハ。三百兩以上。絞
不在法ノ贓。各モアル者。通算シ テ全額トス
一兩以下。笞五十
一兩以上。杖六十
一十兩以上。杖七十
二十兩以上。杖八十
三十兩以上。杖九十

改定律例。受贓律

(三)

四十兩以上。杖一百
五十兩以上。徒一年
六十兩以上。徒一年半
七十兩以上。徒二年
八十兩以上。徒二年半
九十兩以上。徒三年
一百兩以上。流一等
一百一十兩以上。流二等
一百二十兩以上。流三等
三百兩以上。絞
等外人ハ。三百兩以上。絞
罪。流三等ニ止ル
坐贓致罪
凡枉法。不在法ノ事ニ因リ。財ヲ 受ルニ非ヌレテ。贓ニ坐シ。罪ニ 致ス者ハ。通算シテ。罪ヲ科ス。與 ル者ハ。五等ヲ減ス。
五兩以下。笞一十

新律綱領。受贓律



事後受財條例

第二百四十三條 凡官吏、事後受財ヲ受ル者ハ本條ニ依リ罪ヲ科スト  
雖凡其錢ヲ出シ及ヒ過スルノ人ハ並ニ杖七十二處スル律ヲ改メ

五十兩以上、管二十
四十兩以上、管四十
六十兩以上、管五十
八十兩以上、杖六十
一百兩以上、杖七十
一百二十兩以上、杖八十
一百四十兩以上、杖九十
一百六十兩以上、杖一百
二百兩以上、徒一年
四百兩以上、徒一年半
六百兩以上、徒二年
八百兩以上、徒二年半
一千兩以上、徒三年

事後受財  
凡官吏、事行ノ事アリ先キ二財ヲ送ルヲ罪許セズ、事過ルノ後財ヲ受ケ、事若シ枉斷スル者

坐贓ニ依テ論シ一等ヲ減シテ、並ニ罪、懲役七十日ニ止ル

⑦七年八月十九日、皇正親王、御若令、贈許、私、贈、等、二、依、官吏ノ受、理、ヲ、促、サ、シ、テ、財、物、ヲ、送、ル、ニ、官、吏、贈、付、シ、テ、受、ケ、ヤ、ル、ハ、其、送、ル、者、ハ、不、問、ニ、オ、ク

以財請求條例

第二百四十四條 凡枉法ノ事ニ非スト雖モ財ヲ以テ官吏ノ受理ヲ請求スル者ハ與フル所ノ財ヲ計ヘ坐贓ニ依テ論シ一等ヲ減ス

改定條例○坐贓律

官志

新律綱領○坐贓律

ハ枉法ニ準シテ論シ、事枉斷セサル者ハ、不枉法ニ準シテ論ス、並ニ罪、流、三、等、ニ、止、ル、杖、ヲ、出、シ、及、ヒ、過、ス、ル、ノ、人、ハ、並、ニ、杖、七、十、凡官吏、財物ヲ送ル下ヲ聽許スレハ、未ダ、推、受、セ、ズ、ト、雖、モ、事、若、シ、枉、ル、者、ハ、枉、法、ニ、準、シ、テ、論、シ、事、枉、ケ、サ、ル、者、ハ、不、枉、法、ニ、準、シ、テ、論、シ、各、一、等、ヲ、減、ス、枉、ル、所、重、キ、者、ハ、各、重、キ、ニ、從、テ、論、ス、以財請求  
凡諸人、事アリ財ヲ以テ官吏ニ請求シ、法ヲ枉ルヲ得ント欲スル者ハ、與フル所ノ財ヲ計ヘ、坐贓ニ依テ論ス、若シ難ク避ケ、易ニ就キ、枉タル所ノ罪、重キ者ハ、重キニ從テ論ス、







受外國人餽送條例

第二百四十五條 凡外國人ノ餽送  
スル飲食土宜等交際ノ禮ニ係リ  
互ニ相贈遺スル者ハ官ニ告ケス  
ト雖モ以不枉法論ノ限ニ在ラス

社留盜賊

凡巡捕官吏已ニ盜賊ヲ獲テ賊  
物ヲ魁留シ官司ニ送ラサル者  
ハ苦三十日レニ入ル者ハ賊  
ニ計ハ不枉法ヲ以テ論ス

受外國人餽送

凡官吏人私ニ外國人ノ餽送ヲ  
受ケ即時ニ官ニ告サル者ハ賊  
ニ計ハ不枉法ヲ以テ論ス

改定律例

詐偽律

詐偽官文書條例

第二百四十六條 凡私ノ文書ヲ詐  
偽スル者ハ情ヲ量シ不應爲ニ問  
ト輕重ヲ分シ

○証文等ニ欺人ノ名ヲ詐リ有合印ヲ偽押  
シ物區ヲ典賣シ或ハ賤ヲ借ル者ハ皆此  
條ニ依テ科斷セラル

對詔上書詐不以實條例

第二百四十七條 凡對詔及ヒ奏事  
上書ヲ除ク外上ニ告ルニ詐テ實

改定律例○詐偽律

(百八)

新律綱領

詐偽律

凡官ノ文書ヲ詐爲シ及ヒ增減  
スル者ハ皆徒三年省臺察司府  
藩縣ノ文書ハ二等ノ減シ餘ノ  
文書ハ五等ヲ減ス未タ施行セ  
ザル者ハ各二等ヲ減シ重事ニ  
關スル文書ハ各一等ヲ加テ若  
シ規避スル術アル者ハ各重キ  
ニ從テ論ス

對詔上書詐不以實

凡對詔及ヒ奏事上書ニ詐テ實  
ヲ以テモヤル者ハ徒二年

新律綱領○詐偽律



ヲ以テモサレ者ハ懲役一年事情

輕キ者ハ懲役八十日

偽造官印條例

第二百四十八條

凡官ノ印ヲ偽造

スル者ハ絞ニ處スル律ヲ改メ懲

役終身

改正偽造實貨律

第二百四十九條

凡實貨ヲ偽造シ

已ニ行使スル者ハ斬從及ヒ匠人

若クハ情ヲ知テ買使スル者ハ懲役

終身其雜役ニ供スル者ハ懲役十年

未タ行使セサル者ハ各一等ヲ減ス

其偽造未タ成ラサル者ハ懲役

三年從及ヒ匠人ハ懲役二年半

若シ過テ悔ヒ自首スル者已ニ

使スルハ二等ヲ減シ未タ行使セ

サルハ罪ヲ免ス

偽造實貨條例

第二百五十條

凡金銀貨幣ノ造

ラ錯シテ利ヲ取リ行使スル者

ハ懲役三年

第二百五十一條

凡紙幣ノ字樣ヲ

挑刺シ成片ヲ補綴シ筆畫ヲ描

改定律例○詔諭律

旨也

偽造官印

凡官ノ印ヲ偽造スル者ハ絞省

臺察司府藩縣ノ印ハ流一等除

ノ印ハ從一年未タ行使セサル

者ハ各一等ヲ減ス財ヲ得ル者ハ

各盜罪ノ以テ重キニ從テ論ス

偽造實貨

凡實貨ヲ偽造シ已ニ行使スレ

ハ絞數ノ多寡ヲ論セズ首タル

者ハ斬從及ヒ匠人

若クハ情ヲ知テ買使スル者ハ懲役

終身其雜役ニ供スル者ハ懲役十年

未タ行使セサル者ハ各一等ヲ減ス

其偽造未タ成ラサル者ハ懲役

三年從及ヒ匠人ハ懲役二年半

若シ過テ悔ヒ自首スル者已ニ

使スルハ一等ヲ減シ行使セサ

ルハ罪ヲ免ス府藩縣通行ノ貨

幣モ亦同シ

同 京都裁判所何甲州金加

賣判等ヲ偽造スル者アリ

右海内普ク通用ノ品ニ

無之付金銀器物ヲ偽造

スルモノ見做シ各其所得ノ

姦利ヲ賍ニ計ヘ竊盜ニ

準シテ論シ可然也

七年二月二日何ノ通

新律綱領○詔諭律

旨也



シ、眞ヲ以テ偽ニ作り行使スル者ハ、懲役五年、十ノ下ニテ直ス

第二百五十二條 凡偽造タルコトヲ知テ買取シ、未タ行使セサル者ハ、

已買使者ニ一等ヲ減ス。已買使者ハトリテ使タルモノ

第二百五十三條 凡偽造タルコトヲ知テ、雇ヲ受ケ、持造シテ、眞貨ニ兌換スル者ハ、知情買使ヲ以テ論ス。

第二百五十四條 凡偽造スルノ情ヲ知テ、房屋ヲ給シ、及ヒ高藏スル

者ハ、已決行使ヲ分テ、並ニ偽造徒ヲ以テ論ス。

第二百五十五條 凡雜役ニ供スル者、雇工錢ニ、偽貨ヲ受ケ、行使スル者ハ、知情行使律ニ依ル。

第二百五十六條 凡偽造已ニ成リ、未タ行使セスシテ悔悟シ、其夥黨ヲ脱スト雖モ、首報セザル者ハ、偽造已成未行使ヲ以テ論ス、其偽造未タ成ラサル者ハ、懲役百日。

第二百五十七條 凡人ノ寶貨ヲ偽造スルコトヲ知テ、官司ニ申報セザ

改定律例○詠編律

(百十)

新律綱領○詠偽律

○七年八月廿八日愛媛縣伺信  
令水銀ヲ以テ銅貨ヲ摺磨シテ銀色ト爲シ、筆畫ヲ添加シテ行使スト、且モ十ノ字ヲ欠キ且縁邊ノ模樣異ナル例、第二百五十二條眞ヲ以テ偽ニ作ル者ト同シク論シ、例第二百五十條ニ比擬シテ罪ヲ科ス

偽造斛斗秤尺

凡斛斗秤尺ヲ偽造スル者ハ、流一等從タル者、及ヒ匠人ハ、徒三年



ル者ハ違令重ニ問フ。

第二百五十八條 凡賣貨ヲ取受スルノ後始テ偽造ニ係ルヲ知リ官ノ檢視ヲ經ヌシテ行使スル者一ハ不應爲重ニ問フ。

増加 六年六月二十八日 第百三十一号 御布告

凡紙幣ニ印スルニ漏印及ヒ割用スル者ハ一張ニ懲役十日三張毎ニ一等ヲ加ヘ罪懲役七十日ニ止ル若シ檢査官吏賄賂交收スル者罪亦同。

改正 十年三月二日 第二十五号 御布告 偽造賣貨律

凡賣貨ヲ偽造シ已ニ行使スル者首ハ斬。改テ懲役終身。從及ヒ匠人。若クハ情ヲ知テ買使スル者ハ懲役終身。改テ懲役十年。其雜役ニ供スル者ハ懲役十年。改テ懲役七年。

増加 六年八月二日 第百七十九号 御布告

凡紙幣ノ邊縁ヲ増補シ秤量ノ標準ニ應テ變換シテ利ヲ圖ル者ハ懲役一年半。情輕キ者ハ不應爲律ニ問ヒ輕重ヲ分ツ。

改定律例〇詐偽律

(百十二)

偽造私印

凡私印ヲ偽造スル者ハ杖一百。財ヲ得ル者ハ贓ニ計ヘ各盜罪ヲ以テ重キニ從テ論ス。

詐稱官

凡無官ニシテ有官ト詐稱シ或ハ官司ノ差遣ト詐稱シテ人ヲ捕ヘ及ヒ官員ノ姓名ヲ詐冒シテ求爲スル所アル者ハ徒二年半。犯ス所輕キ者ハ杖七十。若シ見任官ノ子孫第經家令等ト詐稱シテ求爲スル所アル者ハ杖九十。犯ス所輕キ者ハ答三十。從タル者ハ各一等ヲ減ス。若シ財ヲ得ル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準ヒ重キニ從テ論ス。罪流三等ニ止ル。

新律綱例〇詐偽律



詐稱官條例

第二百五十九條 凡郷貫名氏ヲ詐稱シテ。客塵ニ宿ヌル者ハ。不應爲輕ニ問フ。

新治裁判所併指令六年八月三十一日

秤量ノ懸紐ヲ補修交換スルノニシテ別ニ利欲ヲ圖ルニ出サル者 改定本律條例凡秤量ノ標星懸紐ヲ交換シテ情輕キ者不應爲輕ニ擬シ懲役三十日贖ヲ聽ス

詐稱病死傳

凡官吏人等。疾病ト詐稱シ。事ニ臨テ難ヲ避ル者ハ。皆三十。避ル所事重キ者ハ。杖七十。若シ罪ヲ犯シテ。死スト詐稱シ。喚問ヲ免レントスル者ハ。徒一年半。避ル所事重キ者ハ。各重キニ從テ論ヌ 若シ人ト忿爭シテ。故サラニ自ラ傷殘シ。人ニ誹謗スル者ハ。杖七十。其屬ヒヲ受ケ。人ノ爲ニ傷殘スル者ハ。犯人ト同罪。因テ死ニ致ス者ハ。闕殺罪ニ。一等減ス。若シ當該ノ官司。知テ執行スル者ハ。同罪罪流三等ニ止ル。知テ行スル者ハ。坐セス。 詐救誘人犯 凡欺テ人ヲ誘誘シテ。法ヲ犯スル者ハ。同罪。若シ誘誘シテ。捕管セムル者ハ。法ヲ犯スル者ト同罪。

改定律例

改正犯姦律

犯姦

第二百六十條 凡和姦。夫アル者ハ。各懲役一年。若ハ。一等ヲ減ス。若シ姦合。及ヒ容止シテ。通姦セシムル者ハ。犯人ノ罪ニ三等ヲ減ス。強姦スル者ハ。懲役十年。未タ成ラサル者ハ。一等ヲ減ス。因テ折傷スル者ハ。懲役終身。婦女ハ。坐セス。十二歳以下ノ幼女ヲ姦スル者ハ。和ト雖モ強ト同ク論ヌ。

改定律例〇犯姦律

(百七)

新律綱領

犯姦律

凡和姦ハ。各杖七十。夫アル者ハ。各徒三年 若シ姦合及ヒ容止シテ。通姦セシムル者ハ。犯人ノ罪ニ。一等ヲ減ス。強姦スル者。流三等。未タ成ラサル者ハ。流一等ヲ減ス。因テ折傷スル者ハ。絞。婦女ハ。坐セス。十二歳以下ノ幼女ヲ姦スル者ハ。和ト雖モ。強ト同ク論ヌ。

新律綱領〇犯姦律



親屬相姦

第二百六十一條 凡父祖ノ妻、伯叔、  
 姑、姊妹、及ヒ子孫ノ婦ヲ姦スル者  
 ハ、各懲役三年、強姦スル者ハ懲役  
 終身、若シ母ノ姉妹、及ヒ兄弟ノ妻、  
 姪ノ妻ヲ姦スル者ハ、懲役二年、姦  
 ヲ姦スル者ハ、各一等ヲ減ス、強姦  
 スル者ハ、並ニ懲役終身、  
 若シ兄弟姉妹ノ女、及ヒ前夫ノ女、  
 同母異父姉妹ヲ姦スル者ハ、各懲  
 役一年、強姦スル者ハ、懲役終身、  
 姦家長妻

親族相姦

凡父祖ノ妻、姑、姊妹、及ヒ子孫ノ  
 婦、兄弟ノ女ヲ姦スル者ハ、各流  
 三等、強姦スル者ハ、斬、  
 若シ母ノ姉妹、及ヒ兄弟ノ妻、姪  
 ノ妻ヲ姦スル者ハ、各流一等、強  
 姦スル者ハ、絞、姦スル者ハ  
 各一等ヲ減ス、強姦スル者ハ、  
 絞、  
 若シ前夫ノ女、同母異父姉妹ヲ  
 姦スル者ハ、各徒三年、強姦スル者  
 ハ、絞、  
 姦家長妻

第二百六十二條

凡雇入、家長ノ妻  
 ヲ姦スル者ハ、各懲役一年半、強姦  
 スル者ハ、懲役終身、  
 各トハ男モ女モ  
 ト云フナリ

姦部民妻

第二百六十三條 凡官吏、部民ノ妻  
 ヲ姦スル者ハ、懲役一年半、相姦ス  
 ルノ妻ハ、懲役一年、

居喪犯姦

第二百六十四條 凡父母、舅姑、及ヒ  
 夫ノ喪ニ居リ、姦ヲ犯ス者ハ、各凡  
 姦ニ一等ヲ加フ、相姦スルノ人ハ、

改定律例〇犯姦律

百十三

新律綱領〇犯姦律

スル者ハ斬、  
 若シ家長ノ女、姉妹、及ヒ姑若クハ  
 兄弟ノ妻ヲ姦スル者ハ、流一等、  
 婦女ハ、凡姦ヲ以テ論ス、強姦ス  
 ル者ハ、絞、姦スル者ハ、各一  
 等ヲ減ス、強姦スル者ハ、絞、  
 姦部民妻女

凡官吏、所部内ノ妻女ヲ姦スル  
 者ハ、凡姦罪ニ、二等ヲ加フ、婦女  
 姦、凡姦罪以テ論ス、

居喪及僧尼犯姦

凡父母、舅姑、及ヒ夫ノ喪ニ居リ、  
 若クハ僧尼ノ姦ヲ犯ス者ハ、各  
 凡姦罪ニ、二等ヲ加フ、相姦スル  
 ノ人ハ、凡姦ヲ以テ論ス、



凡姦ヲ以テ論ス。

**改正** 六年七月三十日第二百七十四号御布告屠殺犯姦律

父母舅姑、夫ノ喪ニ居リ。姦ヲ犯ス者

ハ、各凡姦ニ一等ヲ加フル律ヲ改

メ、父母舅姑ノ喪ニ居リ。姦ヲ犯ス

者ハ、凡姦ヲ以テ論シ、夫ノ喪ニ居

リ。姦ヲ犯ス者ハ、有夫ヲ以テ論ス。

犯姦條例

第二百六十五條 凡和姦ノ後、姦情

敗露ニ因テ、姦婦、悔迫自盡スル者

ハ、姦夫、情ヲ知ラスト雖モ、姦罪ニ

一等ヲ加フ。

第二百六十六條 凡姦スル者ハ、

各懲役九十日、華士族ハ、威廉耻甚

ク、以テ論ス。其姦セラル、ノ幼童

十五歳以下ノ者ハ、坐セヌ。若シ強

姦スル者、懲役十等、未成ニシテ者、一等減ス

第二百六十七條 九年一月十二日

以テ廢ヌ。〇九年一月廿七日警視

廳第二十三号ヲ以テ、賣淫罰則ヲ

定セラル

第二百六十八條 凡僧尼ノ姦ヲ犯

ス者ハ、凡姦罪ヲ以テ論ス。

改定律例〇犯姦律

(百十四)

新律綱領。

① 埼玉裁判何本夫脱藩逃亡シテ後帰セザル尚二年以内在テ其遺セル妻、姦姦ヲ犯セハ有夫本罪ニ科シ若シ二年以外ニ至テ犯ス者ハ無夫ヲ以テ論シ可然ヤ

② 七年四月十九日指令遺妻ノ離婚ハ二十四ヶ月ヲ過レハ間居ト里モ其未タ離婚セザル間ノ姦罪ハ仮令二十四ヶ月外ト里モ有夫姦ヲ以テ處断スベシ

③ 山口縣同人ノ妻ニシテ寡婦ト詐稱シ姦通シ姦夫固ヨリ有夫ヲ知ラサル者無罪タルベキヤ

④ 六年七月廿四日縣何之指令養子妻ノ姉妹ヲ姦スル者ハ同母異父姉妹ヲ姦スル權衛ニ依リ各懲役一年



増加 六年七月廿八日  
第二百七十三号 海布告

凡妻妾ヲ縱容シテ。人ト通姦セシム

ル者ハ。本夫。本妻。各懲役一年。

因テ財ヲ圖ル者ハ。枉法ニ準ジ。重

キニ從テ論ス。

増加 六年十月十七日  
第二百四十九号 海布告

強姦。死ニ致ス者ハ。斬。

神 七年五月十三日 司法省第十号  
布達令 般犯者ノ懲ニ付左ノ通

リ於當者議定ス

凡客事他人ノ指稱ニ據ル者ハ論  
スルヲカシ

伺 福岡縣同略有夫姦ナレ

ハ本夫ノ申告ヲ待テ罪

ヲ科スベシト雖モ親族

姦居喪姦等ノ如キハ他

人ノ指稱ヲ論スルナキ

井ハ罪ノ科スベキナレ

是等ハ親戚ノ申告ヲ待

テ罪ヲ論スベキカ

令 七年八月十五日 親屬姦

居喪姦等ハ第十号 布達

ノ限ニアラズ五等親皆

申告スルヲ得ベシ

改定律例

難犯律

改定律例〇難犯律

百十五

新律綱領

難犯律

拆毀揭持場

凡揭持場ヲ拆毀シ。及ヒ板持ヲ

毀スル者ハ。徒三年。

販賣鴉片烟

凡鴉片烟ヲ販賣シテ。利ヲ圖ル

者。皆ハ。斬。徒ハ。流三等。

若シ人ヲ引誘シテ。吸食セシム

ル者ハ。絞。徒及ヒ情ヲ知り。娼屋

ヲ給スル者ハ。流三等。引誘セラ

レテ。吸食スル者ハ。徒一年

若シ販賣シテ。未ダ消費セサル

者。皆ハ。流三等。徒ハ。徒三年。買食

スル者ハ。徒二年半。並ニ鴉片烟

ハ。官ニ没入ス

若シ官吏。知テ舉セサル者ハ。同

罪。流三等ニ止ル。財ヲ受ル者

新律綱領〇難犯律



賭博條例

第二百六十九條 凡賭博三犯以上ハ懲役一年。

第二百七十條 凡賭博現在ノ財物ハ官ニ入ルト雖モ其田宅等不動

産ニ係ル者ハ原主ニ還付シ官ニ

入ルノ限ニ在ラス。

第二百七十一條 凡博戲二用フル

骰子骨牌ヲ賣ル者ハ賭博者ト同

罪再犯ハ一等ヲ加ヘ三犯以上ハ

懲役一年。

第二百七十二條 凡賭博ノ例ニ與

ハ枉法ヲ以テ重ニ從テ論ス。

賭博

凡財物ヲ賭シ博戲ヲ爲ス者ハ

皆杖八十賭博ノ財物ハ官ニ入

ル其賭博ヲ開張スル人ハ其刑

ニ與ラスト雖モ同罪飲食ヲ賭

スル者ハ論スルヲ勿シ。

若シ産業無クシテ常ニ賭刀ヲ

挾帶シ無賴ノ徒ヲ招結シ賭場

ヲ開張シ四郡ニ播行スル者ハ

皆流一等。

囑託公事

凡法令ヲ賣ケンコトヲ欲シ公事

ヲ囑託スル者ハ已レノ爲ニシ

人ノ爲ニスルコトヲ論セス若四

十當該ノ官吏聽從スル者ハ同

罪聽從セサル者ハ坐セス若シ

事已ニ施行スル者ハ杖九十枉

ラヌト雖モ母錢ヲ借シ息ヲ收ム

者ハ犯人ト同罪。

七年四月二十五日司法省第八

号布達

賭博ヲ企テ未タ行ハサル者及ヒ

博戲ノ爲ニ骰子骨牌ヲ持スル者

ハ情ヲ量リ違式輕重ニ問ヒ並ニ

失火條例

第二百七十三條 凡太廟及ヒ山陵

内ニ於テ火ヲ失スル者ハ律ニ依

リ罪ヲ科スルノ外官幣國幣大社

ハ山陵ト同シク論シ中社ハ懲役

百日小社ハ懲役九十日府縣社ハ

改定條例○雜犯律

百十六

凡所罪重キ者官吏ハ故出入人罪律ヲ以テ論ス若シ他人及ヒ親屬ノ爲ニ囑託シテ枉ル所罪皆四十ヨリ重キ者ハ當該官吏ノ罪ニ三等ヲ減ス自己ノ專ヲ囑託スル者ハ坐スヘキ本罪ニ一等ヲ加フ。

若シ法ヲ曲ケ贓ヲ受ル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ論ス

失火

凡火ヲ失シテ自己ノ宅舎ヲ燒

ク者ハ皆二十人ノ宅舎ニ延燒

スル者ハ皆四十罪止タ火ヲ失

スル人ヲ坐ス。

若シ太廟及ヒ宮闕内ニ於テ火

ヲ失スル者ハ流三等山陵ノ兆

域内ハ徒一年公廟及ヒ倉庫内

新律綱領○雜犯律



懲役七十日。延焼ハ。懲役六十日。延焼スル者ハ。各本罪ニ。三等ヲ減ス。減シテ。人ノ宅舎ヲ延焼スルヨリ。輕ク。若クハ。等キハ。並ニ。一等ヲ加フ

第二百七十四條 凡稅居人。火ヲ失シテ。其家ヲ燒ク者ハ。自己宅舎ヲ燒クニ。一等ヲ加フ。

第二百七十五條 凡火ヲ失シテ。人ハ死ニ致ス者ハ。死屍ノ多寡ヲ加テ。其同居ノ祖父母。姉妹。兄弟。父母。母ヲ燒死ニ致ス者ハ。懲役百日

改正 六年八月十二日 第二百九十九号 御布告

ハ。杖一百。主守ノ人。因テ財物ヲ獲取スル者ハ。賊ニ計ヘ。監守自逸ヲ以テ論ス。其外ニ在リ。火ヲ失シテ。延焼スル者ハ。各三等ヲ減ス。其宮殿。及ヒ倉庫ヲ守衛シ。若クハ。因テ掌ル者。火ノ起ルヲ見テ。ハ。所守ヲ離ル。トテ得ス。違フ者ハ。杖七十。

第二百七十五條 凡火ヲ失シ。人ヲ燒死ニ致ス者ハ。死屍ノ多寡ヲ加テ。其同居ノ祖父母。姉妹。兄弟。父母。母ヲ燒死ニ致ス者ハ。懲役百日。二等親以下ノ尊長ハ。各一等ヲ減シ。尊長ハ。各等親ニ照シ。尊長ニ三等ヲ減ス。減シテ。罪致メ。燒死律ヨリ輕キ者ハ。減セヌ。其各居ニ係ル者ハ。等親尊卑ヲ論セヌ。並ニ。致人燒死ト。罪同。

第二百七十六條 凡火ヲ失シテ。人ノ山林。柴草。及ヒ空間。房屋。若クハ

改定律例。雜犯律 (百七)

① 身取懸一時留守番ノ者又ハ後見人等燒失スルヨリ。同  
② 七年六月十五日指令後見人火ヲ失スレハ。自己ノ宅舎ヲ燒ク以テ論ス。一時留守番ノ者ハ。自己ノ宅舎ヲ燒クニ。一等ヲ加フ  
③ 名東縣管內ノ者。自己宅火ニ付。衣類。諸道具。預リノ品。不殘燒失スルハ。同  
④ 七年十月十日指令。火災ニ罹ル者ハ。之ヲ賠償スルニ。及バズ。預テ主預リ主双方ノ損失タルベシ。但シ。別段契約アルモノハ。此限リニアラス

新律編例。雜犯律



田場積聚ノ物ヲ延焼スル者ハ官  
私ヲ分テ人ノ宅舎ニ延焼スル  
ニ一等ヲ減ス。

第二百七十七條 凡盜犯火ヲ用ヒ

テ門闕戸樞ヲ燒毀シ及ヒ燬炬ヲ

持シ期セヌシテ失火ニ致ス者ハ

懲役三年若シ盜罪重キ者ハ重キ

ニ從テ論ス

放火條例 (ヒツテ)

第二百七十八條 凡火ヲ放テ人ノ

空間房屋及ヒ田場積聚ノ物ヲ燒

テ者ハ懲役七年未ダ燒燬ニ至ラ

放火

凡火ヲ放テ放テラニ公廩倉庫  
及ヒ民舎ヲ燒テ者ハ皆斬未ダ  
燒燬ニ至ラサル者ハ流三等

サレ者ハ懲役三年

第二百七十九條 凡火ヲ放テ故テ

ニ追犯ノ房屋ヲ燒テ者ハ懲役九

十日未ダ燒燬ニ至ラサル者ハ一

等ヲ減ス若シ期セヌシテ公廩倉

庫及ヒ民舎ヲ延焼スル者ハ懲役

二年半因テ財ヲ盜ム者ハ懲役終

身

第二百八十條 凡火ヲ放テ人ノ空

間房屋ヲ燒キ期セヌシテ人ノ宅

舎ニ延焼スル者ハ懲役十年

第二百八十一條 凡火ヲ放テ人ノ

改定律例ノ雜犯律

(百八)

新律例ノ雜犯律



宅舎ヲ燒キ未ク燒毀ニ至ラサル者律ニ照シ懲役十年ニ處スル外若シ屠人等家長ノ督責ニ苛迫シ一時脱身ヲ圖リ燒ニ火ヲ放チ未ク燒毀ニ至ラサル者ハ情ヲ量テ三等ヲ減シ懲役三年

得遺失物條例

- 第二百八十二條 九年四月十九日第
- 第二百八十三條 五十五号ヲ以テ
- 第二百八十四條 以上五條剛除
- 第二百八十五條 セラル
- 第二百八十六條

得遺失物

凡遺失ノ物ヲ得レハ必ス官ニ送ルヘシ官物ハ金ノ官ニ入レ私物ハ一半ヲ其主ニ給シ一半ヲ得ル人ニ給ス如シ三十日內ニ其主ナケレハ金ヲ給ス若シ官ニ送ラサル者官物ハ坐贖ヲ以テ論シ物ヲ送シテ官ニ還ヌ

改正 九年四月十九日第五十五号 御布告得遺失物律

凡遺失ノ物ヲ得隠匿シテ官ニ送ラヌ及ヒ主ニ還サハル者ハ官私ヲ分ツヌ竊盜ニ準シテ論シ一等ヲ減シ並ニ物ヲ送シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル  
若シ官私地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ掘得隠シテ官ニ送ラサル者モ罪亦同シ

遺令條例

第二百八十七條 凡制ニ違フ者ハ懲役百日輕キ者ハ一等ヲ減ス  
改正條例〇雜犯律 (官志)

遺令

凡令ニ違フニ重キ者ハ首四十輕キ者ハ一等減ス  
新律編領〇雜犯律

私物ハ一等ヲ減シ主ナル物ヲ送シテ主ニ給シ主ナキハ官ニ入ル若シ官私地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ掘得ル者ハ並ニ官ニ送リ地主ト中分セシム隠シテ送ラサル者ハ主ニ分ツ可キノ數ヲ計ハ坐贖ヲ以テ論シ一等ヲ減ヌ仍ホ地主ト中分セシム



第二百八十八條 凡式ニ違フ者ハ、懲役二十日。輕キ者ハ、一等ヲ減ス。不應爲條例

第二百八十九條 凡二人以上、同ク不應爲ヲ犯シ、首タル者、懲役三十日ニ該レハ、從ハ、懲役二十日。首タル者、懲役七十日ニ該レハ、從ハ、懲役六十日ニ科ス。若シ所犯、輕重ノ分アラハ、不應爲ニ分擬シ、首從ヲ以論セス。

第二百九十條 凡佛像ヲ棄毀スル者ハ、不應爲重ニ科ス。

第二百九十一條 凡詭言怪說ヲ流傳シ、及ヒ著述シテ、政體ヲ妨害スル者ハ、不應爲重ニ科ス。

○八年九月五日第二百九十一條刪除

改定律例

捕亡律

追捕罪人條例

第二百九十二條 凡捕吏、正犯ノ財ヲ受テ、故縱スル同罪者、正犯、死ニ至レハ、同罪者ハ、絞ニ處スル律ヲ改定律例○捕亡律 (官ヤ)

不應爲

凡律令ニ正條ナシト雖モ、情理ニ於テ、爲スヲ得、應カテサレノ事ヲ爲ス者ハ、皆三十。事理重キ者ハ、杖七十。

新律綱領

追捕罪人

凡捕吏差違ヲ承ケ、罪人ヲ追捕スルニ、事故ニ託シテ行カス。若クハ罪人ノ所在ヲ知テ、捕ヘヤル者ハ、杖一百。若シ財ヲ受テ、故縱スル者ハ、囚ト同罪。贓重キ者ハ、贓ニ計ヘ、在法ヲ以テ重キニ新律綱領○捕亡律



改メ懲役終身ニ從フト雖モ其財ヲ受ヌシテ故縱シ及ヒ通借シテ逃避セシムル同罪者ハ罪懲役十年ニ止ル。

改正 十年三月二日 第二十五号御布告

捕吏ヲ毆テ折傷以上ニ至ル者ハ絞改テ懲役終身。

從テ論ス。

罪人拒捕

凡罪ヲ犯シテ逃走シ。追捕ヲ拒ク者ハ。各本罪上ニ二等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。本罪死ヌヘキ者ハ。常律ニ依ル。捕吏ヲ毆テ。折傷以上ニ至ル者ハ。絞。殺ヌ者ハ。斬。從タル者ハ。各一等ヲ減ヌ。若シ罪人。兇器ヲ持シ。拒捕スルニ。捕吏之ヲ格殺シ。及ヒ因逃走スルニ。捕吏之ヲ逐殺シ。若クハ。因逃走ニ因テ竊盜シ。自殺スル者ハ。並ニ論スル丁勿レ。若シ罪囚。逃走スト雖モ。已ニ拘執ニ就キ。及ヒ拒捕セサルニ。捕吏之ヲ殺シ。或ハ折傷スル者ハ。各關殺傷ヲ以テ論ス。若シ死罪ニ該ル罪人ヲ。捕吏一時急激シ

獄囚脱監及反獄逃走條例

第二百九十三條 凡脱監及ヒ越獄

シテ。逃走スル者ハ。各本罪上ニ二等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル律ヲ改メ。懲役終身ニ止ル。

第二百九十四條 凡反獄シテ逃走

スル者ハ。皆斬ニ處スル律ヲ改メ。首ハ。斬。從ハ。懲役終身。

第二百九十五條 凡罪囚糾合シテ

越獄スルニ。從ハス。實ニ擄テ首報シ。因テ罪囚即時ニ獲ニ就キ。脱逃ヲ致サ、ルヲ得ル者。及ヒ反獄

テ。懲役スル者ハ。杖九十。

獄囚脱監及反獄逃走

凡罪ヲ犯シ。囚禁セラレテ。脱監。及ヒ越獄シテ。逃走スル者ハ。各本罪上ニ二等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル水罪。死ヌヘキ者ハ。常律ニ依ル。若シ罪囚。反獄シテ。逃者スル者ハ。皆斬。同牢ノ囚人。反情ヲ知ラサル者ハ。坐セス。其罪囚。水火震災ノ變ニ因テ逸出シ。復歸スル者ハ。斬絞以下。各一等ヲ減ス。

改定律例。

夏

新律綱領。捕七律



ノ情ヲ知テ首報スル者ハ斬絞以下各本罪ニ一等ヲ減ス。

第二百九十六條 凡脱監及ヒ越獄シテ逃走スル者再逃以上ハ又ニ

等ヲ累加シ罪懲役終身ニ止ム懲役場ヲ逃走シ又監獄ヲ脱越スル者罪亦同。

第二百九十七條 凡犯人積付内ニ逃走スル者ハ本罪ニ一等ヲ加フ若シ圍禁及ヒ責付内ニ逃走シテ自首スル者ハ止タ本罪ヲ科シテ逃罪ヲ免ス。

第二百九十八條 凡懲役一年以上ノ囚人限内逃走スル者ハ杖七十改テ棒鎖ニ日再ヒ逃走スル者ハ絞改テ懲役終身。

第二百九十九條 凡懲役百日以下ノ囚人限内逃走スル者ハ棒鎖一日仍ホ原犯ノ日限ニ照シテ新ニ拘役シ再ヒ逃走スル者ハ棒鎖二日更ニ懲役一年ニ入ル若シ外ニ在テ又百日以下ノ罪ヲ犯セハ原犯後犯ヲ通算シテ新ニ拘役ス其

改定律例○捕亡律

懲役人逃條例 原徒流

凡徒流ノ囚人役限未タ満スシテ逃走スル者ハ杖七十仍ホ配所ニ發シ其徒流原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘役シ已ニ役過セ

シ月日ハ並ニ通算セス再ヒ逃走スル者ハ絞

若シ已ニ所決セシ徒流ノ罪囚ヲ發遣シ未タ配所ニ到ラス中途ニシテ逃走スル者モ罪亦同

若シ主守及ヒ押解人罪囚ノ逃走スルヲ覺ラサル者ハ一名ニ答四十一名毎トニ一等ヲ加ハ

罪杖一百ニ止ル故縱スル者ハ各囚ト同罪罪流三等ニ止ル財

ヲ受ル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス

改正 七年二月七日

第十六号御布告

新律細領○捕亡律

(五七)

新律細領○捕亡律

新律細領○捕亡律

(五七)

新律細領○捕亡律

同 新沔縣伺未決ノ囚脱監

及獄ヲ謀リ既ニ監獄ヲ毀損シ未タ逃走セサル者ハ如何

令 七年四月二日指令脱監

ヲ謀リ未タ成ラザル者棒鎖一日及獄シテ成サ

ル者ハ三日ニ處スヘシ

令 七年八月三十一日濱松

縣伺ノ指令 責付内逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ前後ニ罪ノ重キ者ニ從ヒ一等ヲ加フ



一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ。止タ後  
 犯ノ年限ニ照シテ。更ニ科断ス。  
 第三百條 凡懲役一年以上ノ囚人。  
 逃走スル者ハ。例ニ照シ。棒鎖ニ日。  
 仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ。新ニ拘  
 役スト雖モ。若シ逃走シ。外ニ在テ。  
 又三年以下ノ罪ヲ犯セハ。後犯ノ  
 年限ニ。原犯ノ年限ヲ合セテ。拘役  
 スルモ。并四年ニ過ルヲ得ス。百  
 日以下ノ罪ヲ犯ス者モ。并原犯ニ  
 合セテ拘役ス。其五年以上ノ罪ヲ  
 犯ス者ハ。止タ後犯ノ年限ニ照シ

主守及ヒ押解人罪囚ノ逃走ヲ  
 覺ラサル者ハ。一名ニ答四十。  
 一名毎ニ一答ヲ加ヘ。罪杖一  
 百ニ。止ルノ律ヲ改メテ。未決  
 ノ罪囚ト同シク。主守不覺失  
 囚律ニ依ル

テ科断ス。

第三百一條 凡懲役五年以上ノ囚  
 人。限内逃走スル者モ。并例ニ照シ  
 テ。棒鎖ニ日。仍ホ原犯ノ年限ニ照  
 シテ。新ニ拘役スト雖モ。若シ逃走  
 シ。外ニ在テ。重ネテ五年以上。十年  
 以下ノ罪ヲ犯ス者ハ。並ニ拘役四  
 年ヲ加フ。其一年以上。三年以下ノ  
 罪ヲ犯ス者ハ。後犯ノ年限ヲ折半  
 シテ。加役ス。其百日以下ノ罪ヲ犯  
 ス者ハ。役限ヲ全加シテ。折半スル  
 ヲ用ヒス

改定律例。捕亡律

(四)

七年十一月十二日鳥根縣伺ノ  
 指令處刑濟村送人途中  
 ニ於テ逃走スル者不應  
 爲輕ニ處ス。護送者ハ違  
 式輕ニヨリ懲役十日贖  
 罪ヲ聽ス  
 未成丁ノ男子ヲシテ村  
 送人ヲ護送セシメ。中途  
 ニ於テ脫逃スルヲ致ス  
 其罪戸長ニアリ違式重  
 ニ科シ。贖罪セシム。護送  
 者ハ其罪ヲ科セス

新律細領。捕亡律



第三百二條

九年二月廿八日第二十  
二号布告左之通改正

增加

凡懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ、棒

鎖三日。再タヒ逃走スル者ハ、絞。

凡懲役終身ノ囚人逃走シ外ニ在テ

又罪ヲ犯ス者ハ、懲役人又犯罪條

内懲役終身ノ囚人又罪ヲ犯スノ

例ニ照シテ科断ス。

改正

十年三月二日  
第二十五号御布告

凡懲役終身ノ囚人再ヒ逃走スル者

ハ、絞。改テ棒鎖十日。

第三百三條 凡懲役人逃走シテ自

首スル者ハ、逃罪ヲ免シ。仍ホ原犯

ノ年限ニ照シテ新ニ拘役ス。若シ

外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ、自首法

ニ照シテ首免ヲ與フト雖モ其逃

罪及ヒ從新拘役ハ仍ホ本法ヲ盡

ス。首免ヲ與フトハ穴落先ノ罪ヲ免ス。本罪

第三百四條 凡懲役人ノ逃走ヲ報

シ。因テ逃走ヲ致サハルヲ得ル

者ハ、本罪ニ一等ヲ減ス。

第三百五條 凡懲役人逃走ヲ圖リ。

未タ役場ヲ離レヌシテ捕ニ就ク

者ハ、棒鎖三日。從新拘役ノ限ニ在

改定律例。捕亡律

四

新律綱領。捕亡律



ラス。

第三百六條 凡懲役人水火震災ノ變ニ因テ逸出シ二十四時間ニ投歸スル者ハ逃罪ヲ問ハス若シ時ヲ過テ投歸セサル者ハ例ニ照シテ棒鎖三日仍ホ原役ノ剩ル日致ヲ役ス其變ニ遇ヒ内ニ在テ逸出セス能ク消救防禦スル者ハ本罪ニ一等ヲ減ス。

第三百七條 凡禁錮限内外人ニ接見通信シ若クハ疾病療養等ニ託シテ潛出行歩スル者ハ原限ノ年

○七年七月二日司法省第十号布達處刑濟ノ者送籍中途ニ在リ及ヒ無籍無産ニシテ投座場ニ在リ鞫問中ニ於テ逃走スル者棒鎖一日ヲ科スル例ヲ改テ違式輕ヲ以テ論シ莫断ス

主守不覺失囚條例

第三百八條 凡主守看守ニ失レ囚ヲ未決ノ囚自盡ニ至ラレムル者ハ懲役三十日

第三百九條 凡主守囚ヲ逃走ヲ覺ラサル者ハ捕展三十日ヲ給シ逃走ヲ覺セル限内捕得マレハ二等ヲ改定律例ノ捕亡律

主守不覺失囚

凡主守罪 逃走スルヲ覺ラサル者ハ若四十若シ罪囚及獄ニテ逃走スルトキハ一等ヲ賦ス故縱スル者ハ各囚ト同罪流三等ニ止ル。若シ未シ斷決セサルノ間自ラ捕獲シ及ヒ他人捕得シ若クハ囚已ニ死レ及ヒ自首スレハ各一等ヲ減ス財ヲ受ル者ハ賊ニ新律綱領ノ捕亡律



減ス。其故疑スル者ハ。捕限ヲ給セ ス。	第三百十條 凡保管人。囚ノ逃走ヲ 覺ラサル者ハ。主守不覺失囚律ニ。 二等ヲ減ス。	藏匿罪人條例 (トガ人ヲカモス)	第三百十一條 凡官司人ヲ差ハレ。 追喚スル罪人タルヲ知テ。差ノ ニ。藏匿指引レテ。隠避セシムル者 ハ。各罪人ノ罪ニ。一等ヲ減スル律 ヲ改メ。減二等ニ從テ。若シ罪人未 シ官司ノ追喚ニ係ラス。若クハ。已	計ハ枉法ヲ以テ重キニ從テ論 ス。 若シ賊外ヨリ獄ニ入り。罪囚ヲ 劫スニ。防禦スト雖モ。九敵スル ヲ誅ハサル者ハ。論スルヲ勿レ 藏匿罪人 凡他人罪ヲ犯シ。事發レテ。官司 人ヲ差ハレ。追喚スルヲ知リ。家 ニ藏匿レテ。捕告ヲ行ハス。及ヒ 逃走スル道路ヲ指引レ。求根ヲ 皆給レ。送テ他所ニ隠避セシム ル者ハ。各罪人ノ罪ニ。一等ヲ減 ス。其輾轉レテ相送り。罪人ヲ隠 匿スル者。情ヲ知ル者ハ。皆坐ス 知ラサル者ハ。論スルヲ勿レ。 若シ官司ノ追捕ヲ偵知レテ。其 事情ヲ漏泄シ。罪人ヲ助テ。隠避 セシムル者モ。罪人ノ罪ニ。一等
------------------------	--	------------------	--	--

ニ追喚スル者ト雖モ。未タ知ラス レテ。藏匿誘避セシムル者ハ。但シ 情ヲ量テ。不應爲ニ問ヒ。輕重ヲ分 ツ。	改定條例 斷獄律	新律細領 斷獄律 故禁無罪人 凡官吏私讎ヲ懷挾レ。故ヤラニ 藏罪人ヲ禁獄スル者ハ。徒一年。 囚ヲ死ニ致ス者ハ。絞可。獄官。獄 卒。知テ。舉首セサル者ハ。同罪。 流三等ニ止ル。知テ。サレ者ハ。坐 セス。	改定條例 斷獄律 新律細領 斷獄律 故禁無罪人 凡官吏私讎ヲ懷挾レ。故ヤラニ 藏罪人ヲ禁獄スル者ハ。徒一年。 囚ヲ死ニ致ス者ハ。絞可。獄官。獄 卒。知テ。舉首セサル者ハ。同罪。 流三等ニ止ル。知テ。サレ者ハ。坐 セス。	改定條例 斷獄律 新律細領 斷獄律 故禁無罪人 凡官吏私讎ヲ懷挾レ。故ヤラニ 藏罪人ヲ禁獄スル者ハ。徒一年。 囚ヲ死ニ致ス者ハ。絞可。獄官。獄 卒。知テ。舉首セサル者ハ。同罪。 流三等ニ止ル。知テ。サレ者ハ。坐 セス。
---	-------------	--	---	---

改定條例の断獄律

官文

新律細領の断獄律



若シ官吏私職ヲ侵蝕シ故ヲラ  
 二無罪人ヲ拷訊スル者ハ徒一  
 年折傷以上ハ凡關傷ニニ等  
 加フ因テ死ニ致ス者ハ斬同僚  
 官獄事情ヲ知テ共ニ拷訊スル  
 者ハ同罪罪流三等ニ止ル知ラ  
 マル者ハ並セス

凌虐罪囚

凡獄卒非理ニ在獄ノ罪囚ヲ陵  
 虐毆傷スル者ハ凡關傷ニ依テ  
 論ス罪囚ノ衣食ヲ越減スル者  
 ハ賊ニ計ヘ監守自處ヲ以テ論  
 ス因テ死ニ致ス者ハ絞司獄官  
 吏知テ舉セサル者ハ同罪罪流  
 三等ニ止ル

與囚金刃條例 (囚人ニ刃物ヲ与テ)

第三百十二條 凡常人囚ニ金刃ヲ  
 與ヘ及ヒ子孫祖父母父母ニ與ヘ  
 雇人家長ニ與マルル者ハ各獄卒ノ  
 罪ニ一等ヲ減ス

第三百十三條 凡獄卒金錢其他賄賂  
 ノ物ヲ傳遞シテ囚ニ與マルル者ハ  
 違令重ニ問テ若シ財ヲ受ル者ハ  
 賊ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ  
 論ス

改定律例○斷獄律

百三

與囚金刃

凡獄卒金刃及ヒ他物ノ自殺ス  
 一ノ及ヒ解脫ス一ノ具以  
 テ囚ニ與マルル者ハ杖一百囚ヲ  
 囚逃走シ及ヒ自傷シ或ハ人ヲ  
 傷スルヨリ致ス者ハ徒一年若  
 シ囚自殺ス者ハ徒二年  
 若シ財ヲ受ル者ハ賊ニ計ヘ枉  
 法ヲ以テ重キニ從テ論ス

教囚翻異

凡司獄官獄卒罪囚ニ教令シテ  
 事情ヲ翻異變亂セルノ及ヒ尋  
 ニ言語ヲ外人ニ通傳シ其罪ヲ  
 増減スル者ハ故囚人ノ罪律ヲ  
 以テ論ス外人ノ犯ス者ハ一等  
 ヲ減ス若シ財ヲ受ル者ハ並ニ  
 賊ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從  
 テ論ス

新律綱領○斷獄律



老幼不拷訊  
 凡年七十以上、十五以下、若クハ  
 癯疾者ハ、並ニ拷訊ス可カラズ  
 皆救護ニ據テ罪ヲ定ム、違フ者  
 ハ、故失入人罪律ヲ以テ論ス、其  
 相容障スルテ得ルノ人及ヒ  
 年八十以上、十歳以下、若クハ篤  
 疾者ハ、皆證タラシムルヲ得  
 又違フ者ハ、皆四十  
 獄囚証指無罪人  
 凡罪囚獄ニ在テ、無罪人ヲ証指  
 スル者ハ、証告ヲ以テ論シ、其本  
 犯罪重キ者ハ、重ニ半從テ論  
 ス  
 若シ官吏、獄囚ヲ鞠問スルニ奉  
 法ニ持訊シ、故ヤラニ致命ヲ行  
 ヒ、無罪人ヲ証指スル者ハ、故人  
 入罪律ヲ以テ論ス、

出入人罪條例 (ラニ入レリユルニシテ)

第三百十四條 凡故ラニ出入シ、及  
 ヒ入ルニ失スル罪人ハ、己ニ斷  
 了ヲ經ルト雖モ、檢舉シテ改正ス  
 ルヲ得一キ者ハ、改正シ、其出夕  
 又ニ失スル者ハ、點斷スルヲ用  
 ヒス、

第三百十五條 凡官司屍傷ヲ檢視  
 レテ、實ナラサル者ハ、德役四十日、  
 因テ罪ニ増減アル者ハ、未出ハ人  
 改定條例○斷獄律

若シ囚ヲ鞠シテ、證佐ノ人、實情  
 ヲ言ハス、故ヤラニ証證ヲ行フ  
 者ハ、罪人ノ罪ニ、二倍ヲ減ス

出入人罪  
 凡官吏故ヤラニ人ヲ罪ニ出入  
 シ、全ク出夕レ、全ク入ルノ者ハ、  
 出入スル所ノ全罪ヲ以テ論ス、  
 若シ故ナラニ輕ヲ増レテ、重ト  
 作ト、重ヲ減シテ、輕ト作ス者ハ、  
 其増減スル所ノ罪ヲ以テ論ス、  
 死ニ至ル者ハ、全スルニ、死罪ヲ  
 以テス、

若シ罪ヲ斷シテ、入ルニ失ス  
 ル者ハ、各三等ヲ減ス、出夕ヌニ  
 失スル者ハ、各五等ヲ減ス、並  
 ニ罪、所由ヲ以テ、首ト爲ス、  
 若シ囚、未夕思決放免セス、及ヒ  
 故テ遷夕獲、若クハ囚、自死スレ

新律綱領○斷獄律



<p>罪ヲ以テ論ス。若シ財ヲ受ケ。故ラ</p>	<p>ニ續テ以テセナル者ハ。故出人人</p>	<p>罪ヲ以テ論ス。賊重キ者ハ。賊ニ計</p>	<p>一。枉法ヲ以テ。重キニ從テ論ス。</p>
<p>ハ。官吏ノ罪。又各一等ヲ減スル</p>	<p>一。官吏ノ罪。又各一等ヲ減スル</p>	<p>皆杖不効法</p>	<p>凡官吏。皆杖ヲ用ルニ。故ヤ。法</p>
<p>ノ人ハ。各一等ヲ減シ。金兩ヲ追</p>	<p>クハ。各一等ヲ減シ。金兩ヲ追</p>	<p>一。勿レ。</p>	<p>凡婦人。輕罪ヲ犯スハ。本夫ニ責</p>
<p>セシム。重罪禁獄スルヲ許</p>	<p>一。凡婦人。輕罪ヲ犯スハ。本夫ニ責</p>	<p>一。凡婦人。輕罪ヲ犯スハ。本夫ニ責</p>	<p>一。凡婦人。輕罪ヲ犯スハ。本夫ニ責</p>

<p>改定律例。○斷獄律</p>	<p>死囚奏請待緩條例</p>
<p>新律綱領</p>	<p>死囚奏請待緩</p>
<p>ス。進フ者。笞三十。</p>	<p>若シ婦人。懷孕シテ。罪ヲ犯シ。拷</p>
<p>訊スヘキ者ハ。上條ノ如ク。保管</p>	<p>シ。産後一百日ヲ待テ。拷訊スヘ</p>
<p>シ。若シ未タ産セサルニ。拷訊ス</p>	<p>ル者ハ。杖九十。因テ墮胎スル者</p>
<p>ハ。徒一年。死ニ致ス者ハ。流三</p>	<p>等。</p>
<p>若シ懷胎ノ死囚ハ。總嬰ニ看視</p>	<p>セシメテ。後ニ監禁ス。産ノ期ニ</p>
<p>臨メハ。親屬鄰保ニ責付シ。産後</p>	<p>一百日ヲ待テ。乃。刑ヲ行フ。未タ</p>
<p>産セスシテ。決スル者ハ。徒一年</p>	<p>半。産ツ訖ルモ。日限未タ満スシ</p>
<p>テ。決スル者ハ。杖八十。失誤スル</p>	<p>者ハ。各三等ヲ減ス</p>



第三百十六條 凡獄已ニ成リ。罪。死ニ該ル者ヲ奏請シ。待報内ニ在テ。死亡スルニ。遺骸ハ。親屬請フ者アレハ。下付スルヲ聽ス。

斷罪不當條例

第三百十七條 凡收贖ス可キヲ誤テ實斷スル者。改正スルヲ得ヘキ者ハ。改正シ其實斷ス可キヲ誤テ收贖スル者ハ。貼斷スルヲ用ヒヌ。

第三百十八條 凡罪ヲ斷スルハ。口

凡死囚ヲ奏請シ。回報ヲ待タヌ。輒ク處決スル者ハ。杖七十。若シ禁刑ノ日ニ於テ決スル者ハ。答三十。

斷罪不當

凡罪ヲ斷シテ。決配ス可キヲ故サテニ收贖シ。收贖ス可キヲ決配スル者ハ。故出入人罪律ニ依テ一等ヲ減ス。失誤スル者ハ。失出入人罪律ニ依テ一等ヲ減ス。若シ絞ス可キヲ故サテニ斬シ。斬又可キヲ絞スル者ハ。答五十。失誤スル者ハ。三等ヲ減ス。

供結案ニ依ル。若シ甘結セスシテ。死亡スル者ハ。證佐アリト雖モ。其罪ヲ論セス。

改正 九年六月十日 第八十六號御布告

凡罪ヲ斷スルハ。證ニ依ル。若シ未タ斷決セスツテ。死亡スル者ハ。其罪ヲ論セス。

改定律例終

改定律例。斷獄律

(百九)

新律綱領終

新律綱領。斷獄律



○ 讒謗律 明治八年六月二十八日 第一百號御布告ヲ以テ制定

第一條 凡ノ事實ノ有無ヲ論セス。人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ摘發公  
布スル者之ヲ讒毀トス。人ノ行事ヲ譽ルニ非スシテ。惡名ヲ以テ。人ニ加  
ヘ。公布スル者之ヲ誹謗トス。著作文書若クハ畫圖省像ヲ用ヒ。展觀シ。若  
クハ發賣シ。若クハ貼示シテ。人ヲ讒毀シ。若クハ誹謗スル者ハ。下ノ條例  
ニ從テ罪ヲ科ス。

第二條 第一條ノ所爲ヲ以テ。乘輿ヲ犯スニ涉ル者ハ。禁獄三月以上。三年  
以下。罰金五十圓以上。千圓以下。 二罰科セ科シ。或ハ編ヘニ  
一罰ヲ科ス。以下之ニ從ヘ。

第三條 皇族ヲ犯スニ涉ル者ハ。禁獄十五日以上。二年半以下。罰金十五圓  
以上。七百圓以下。

第四條 官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ハ。禁獄十日以上。二年以下。罰金十  
圓以上。五百圓以下。誹謗スル者ハ。禁獄五日以上。一年以下。罰金五圓以上。  
三百圓以下。

第五條 華士族平民ニ對スルヲ論セス。讒毀スル者ハ。禁獄七日以上。二年  
半以下。罰金五圓以上。三百圓以下。誹謗スル者ハ。罰金三圓以上。百圓以  
下。

第六條 法ニ依リ。檢官若クハ法官ニ向テ。罪犯ヲ告發シ。若クハ證スル者  
ハ。第一條ノ例ニアラス。其ノ故造誣告シタル者ハ。誣告律ニ依ル。

第七條 若シ讒毀ヲ受ルノ事。刑法ニ觸ル。者檢官ヨリ。其事ヲ糾治スル  
カ。若クハ讒毀スル者ヨリ。檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ。讒毀ノ罪  
ヲ治ムルコトヲ中止シ。以テ事案ノ決ヲ候テ。其ノ被告人罪ニ坐スル時  
ハ。讒毀ノ罪ヲ論セス。



○ 讒謗律 明治八年六月二十八日

第百十號御布告ヲ以テ制定

第一條 凡ノ事實ノ有無ヲ論セス。人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ。摘發公  
布スル者。之ヲ讒毀トス。人ノ行事ヲ譽ルニ非スシテ。惡名ヲ以テ。人ニ加  
ヘ。公布スル者。之ヲ誹謗トス。著作文書若クハ畫圖省像ヲ用ヒ。展觀シ。若  
クハ發賣シ。若クハ貼示シテ。人ヲ讒毀シ。若クハ誹謗スル者ハ。下ノ條例  
ニ從テ罪ヲ科ス。

第二條 第一條ノ所爲ヲ以テ。乘輿ヲ犯スニ涉ル者ハ。禁獄三月以上。三年  
以下。罰金五十圓以上。千圓以下。

第三條 皇族ヲ犯スニ涉ル者ハ。禁獄十五日以上。二年半以下。罰金十五圓  
以上。七百圓以下。

第四條 官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ハ。禁獄十日以上。二年以下。罰金十  
圓以上。五百圓以下。誹謗スル者ハ。禁獄五日以上。二年以下。罰金五圓以上。  
三百圓以下。

第五條 華士族平民ニ對スルヲ論セス。讒毀スル者ハ。禁獄七日以上。一年  
半以下。罰金五圓以上。三百圓以下。誹謗スル者ハ。罰金三圓以上。百圓以  
下。

第六條 法ニ依リ。檢官若クハ法官ニ向テ。罪犯ヲ告發シ。若クハ證スル者  
ハ。第一條ノ例ニアラス。其ノ故造誣告シタル者ハ。誣告律ニ依ル。

第七條 若シ讒毀ヲ受ルノ事。刑法ニ觸ル。者。檢官ヨリ。其事ヲ糾治スル  
力。若クハ讒毀スル者ヨリ。檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ。讒毀ノ罪  
ヲ治ムルコトヲ中止シ。以テ專察ノ決ヲ候テ。其ノ被告ハ。罪ニ坐スル時  
ハ。讒毀ノ罪ヲ論セス。

○ 附録

(實)



若シ事刑法ニ觸レヌシテ。單ヘニ人ノ榮譽ヲ害スル者ハ。譴毀スルノ後。官ニ告發スト雖モ。仍ホ譴毀ノ罪ヲ治ス。

第八條 凡ソ譴毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者。被害ノ官民自ラ告ルヲ待テ。乃ハテ論ス。

○官吏懲戒例 九年四月十四日第三十四號御布告ヲ以テ制定シ同日第四十八號ヲ以テ新律細領改定律例中官吏ノ公罪ニ係ル者ヲ懲シ自今官吏職務上ノ過失ハ有心故遺。私罪ニ入ル者ヲ除クノ外。其本屬長官ニ任シテ懲戒處分セシム。

第一條 自今私罪ヲ除クノ外ハ。官吏職務上ノ過失ハ。本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有スヘシ。

第二條 懲戒ノ法。三種トス。第一。譴責。第二。罰俸。第三。免職。

第三條 譴責ハ。懲戒ノ輕キモノトシテ。本屬長官ヨリ。譴責書ヲ附ス。

第四條 罪俸ハ。半月ヨリ少カラス。三月ヨリ多カラサル間。俸ヲ奪フ。俸

ヲ追ヌルノ法ハ。毎月給俸ノ半ヲ領置シ。數滿テ大藏省ニ送付ス。

第五條 懲戒ヲ以テ免職ヌル者ハ。本屬長官ノ意見ニ從ヒ。其奏任ハ。具狀奏請シテ。之ヲ免シ。位記ヲ返上セシム。

但懲戒ニ由ルニ非シテ。免職ヌル者ハ。長官上ヨリ論シ。本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ。然後免許ス可シ。

第六條 諸省長官ハ。所屬奏判任官ヲ懲戒ス。

第七條 府縣奏任官ハ。太政大臣之ヲ懲戒ス。府縣並警視廳判任官ハ。其長官之ヲ懲戒ス。

第八條 四等以下ノ判事ハ。司法卿之ヲ懲戒ス。府縣官判事ヲ兼ル者ノ。其所屬判任官ニ於ルハ。他ノ奏任以上。府縣官ノ協議ヲ得タル後。之ヲ懲戒ス。

第九條 府縣長官。警視廳長官。其所屬判任官ヲ懲戒スルニ。其譴責ヲ專行ス。



ルヲ得ルヲ除シノ外。其罰俸免職ヲ行フハ。便宜處分シテ。速ニ内務卿ニ届出ヘシ。

府縣官判事ヲ兼ル者。其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ。便宜處分シテ。速ニ司法卿ニ届出ヘシ。

第十條 其有他故造。私罪ニスル者ハ。職務上ノ罪ト雖モ。之ヲ司法官ニ移シ。本屬長官。專ニ處分スルヲ得ス。

○華族懲戒例 十年五月十日  
九日御布告

第一條 華族ハ。國民中。貴重ノ地位ニ居ル故ニ。其過失。或ハ體面ヲ汚スモノハ。假令法律ニ觸レサルモ。仍ホ之ヲ懲戒ス。

第二條 懲戒ノ法。三種トス。第一。譴責。第二。謹慎。第三。暫居。

第三條 譴責ハ。懲戒ノ輕モノニシテ。宮内卿ヨリ譴責書ヲ下行ス。

第四條 謹慎ハ。十日ヨリ少カラス。百日ヨリ多カラス間。外出ヲ禁シ。門戸ヲ鎖シ。等親ヲ除クノ外面會ヲ許サス。其事情ノ重キ者ハ。位階ノ降級スルヲモアルヘシ。

第五條 暫居ハ。位記ヲ止メ。外出ヲ禁シ。其家ハ。次ノ相續人ニ命シテ相續セシム。

第六條 凡ソ懲戒ノ輕重ハ。其事情ヲ酌量シ。宮内卿之ヲ審案具狀シ。制可ヲ得テ。然シテ後施行ス。

第七條 凡華族ノ犯罪。法律ニ係ルモノハ。裁判官ノ處刑ヲ經シ後。宮内卿。其輕重ヲ酌量シ。事宜ニ應シ。仍ホ懲戒ヲ加フルヲ例ノ如シ。

遺失物律。

附錄第三



○遺失物取扱規則

九年四月十九日、第五十六  
號御布告ヲ以テ、制定シ、同  
日、第五十五號御布告ヲ以  
テ、新律編領、得遺失物律ヲ  
改正シ、改定律例、第二百八  
十二條、第二百八十三條、第  
二百八十四條、第二百八十  
五條、第二百八十六條、ヲ  
刪除ス。

第一條 凡ソ遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルコトヲ覺テス及

ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ。故ニ若シ其物ヲ得ルニ  
臨テ、物主其場ニ就テ、其住タルコトヲ證明スルニ於テハ、直ニ之  
ヲ返還シ、遺失物ヲ以テ論スルコトヲ得ス。

第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ、五日內ニ其主ニ還シ、其主分明ナ  
ラサレハ、之ヲ官ニ送ルヘシ。官之ヲ辨示シ、一年內、其主ナキ片  
ハ之ヲ得者ニ給ス。

第三條 凡遺失物ハ、其遺失スル物品ノ模様、損數、並ニ遺失ノ日  
時、場所等ヲ、可成丈ケ詳細ニ記載シ、速ニ官ニ届出ヘシ。但得者  
ヨリ、其返還ヲ得ル片モ、亦更ニ、其旨ヲ届ケ出ヘシ。

第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ、之ヲ其主ニ還スト雖モ、其費用ヲ  
償ハシムルコトヲ得、且得者報勞ノ爲メ、其物價百分ノ五ヨリ少

遺失物律

附録三百三十四



カラスス二十ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ算フキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜贓ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止タ其費用ノミヲ償ハシム

第六條 凡官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ掘得ル者ハ並ニ官ニ送り地主ト中分セシム但其主分明ナルモノ及ヒ盜贓ニ係ルモノハ此限ニアラス

第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサルキハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ務ルニテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト

報勞金ヲ給與スルヲ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スルキハ律ニ照シテ處分ス

第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ餘剩アルモノハ之ヲ官ニ領置シ務ルニテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第十條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

第十一條 凡警察官吏クル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ還付シ其主ナケレハ之ヲ官ニ没ス

第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論ヒス並

斷罪證據

附録(百三十五)



ニ官ニ没ス。

第十三條 凡公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ。

第十四條 凡遺失物及ヒ逃走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ

官私ニ全ク送還セス或ハ物主タルヲ證明スルニ認シテ

返却セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス。

○斷罪證據 九年八月二十八日司法省ヨリ大審院各裁判所裁判所ヲ置サル各縣へ達書

第一 被告人眞實ノ白狀

第二 被告人又ハ其他ノ交通又手筆ノ文書

第三 相當官吏ノ檢視明細書

第四 證左及參考ノ陳述

第五 裁判所ヨリ任シタル鑑定人ノ報告

第六 證據物品

第七 徵驗(佛語アングラス事實ノ推測(佛語フレソンプシオン

トプエ)顯迹(佛語エウイダグス)

第八 法ノ推測(佛語フレソンプシオンレガル)

前件ノ證據ニ依リ罪ヲ斷スルハ專ラ裁判官ノ信認スル所ニアリ。

○保釋條 明治十年二月九日太政官第十七號御布告

第一條 保釋トハ刑事被告人ヲシテ保証人ヲ立テ保証金ヲ出

シ審訊中ノ繫留ヲ免レシムルヲ云フ。

第二條 裁判官ハ被告人ノ遁逃シ或ハ罪証ヲ隠滅スルヲナキヲ

察スレハ懲役終身以上ニ該ルヘキ者及ヒ先キニ重罪ノ刑ニ處

セラレタル者ヲ除クノ外保釋ヲ許スヘキモノトス。

保釈條例

附錄(百三十三)



第三條 被告人タル者及ヒ其保証人タラント欲スル者、何時ニテモ保釋ヲ願フコトヲ得ベシ。  
裁判官ハ速カニ之ヲ許否スヘシ。事由ナクシテ遷延五日ヲ過ルコトヲ得ス。

第四條 保証人ハ貳名以上トス。然レモ裁判官ノ見込ニヨリ、壹人ニテ充分ナリト認ムル時ハ此例ニアラス。

第五條 保証金高ハ被告人ノ罪情ノ輕重及ヒ被告人、保証人ノ貧富ニ應シ。裁判官相當ノ額ヲ定メ被告人及ヒ保証人連帶ノ之ヲ出サシムヘシ。

第六條 保証人ハ被告人ヲシテ何時ニテモ裁判所ノ呼出ニ應シ、出頭セシムルノ責ニ任スベシ。

第七條 保釋ヲ得ルノ被告人、其住所ヲ定ムルハ、裁判官ノ承諾

ヲ得ベシ。且事故ナクシテ擅ニ他出スルコトヲ許サズ。

第八條 保証人ハ被告人ノ遁逃シ、及ヒ罪證ヲ隠滅セントスルヲ察スレバ、直チニ官ニ告クヘシ。若シ事急ナル時ハ、自ラ拘引スルコトヲ得ヘシ。此場合ニ於テ保証人、保釋ヲ辞スル時ハ、其保証金還付シ、被告人ハ更ニ他ノ保釋ヲ願フコトヲ得。

第九條 被告人裁判所ノ呼出ヲ受ケテ出頭セサル時ハ、直チニ之ヲ逮捕セシム。再ヒ保釋ヲ許サス。仍ホ保証金ハ官ニ没ス。

第十條 被告人保釋中逃走スル者ハ、脱監越獄ヲ以テ論ス。其保証人、逃走スルヲ覺ラサル者ハ、保証金ヲ官ニ没シ、故縱スルモノハ、守

不覺失囚律中、故縱スル者ヲ以テ科斷ス。仍ホ保証金ハ官ニ没ス。

第十一條 保証人タルヘカヲササル者左ノ如シ。  
第一 被告人ノ犯罪ニ付關係アル者。

保釈條例

附錄(百三十七)



第二 懲役五年以上ノ刑ニ處セラレシ者

第三 老幼婦女其他不能力者

第十二條 被告人保釋中一名ノ保證人其保證ヲ辞スルカ又ハ沈没スル時ハ更ニ他ノ保證人ヲ選ムヘシ

第十三條 被告人ノ裁判言渡ヲ受ル時ハ保證金ハ直ニ還付スヘシ

第十四條 若シ裁判官私警ヲ懷挾シ故ラニ保釋ヲ許サル時ハ

故禁無罪人律ヲ以テ論ス

第十五條 裁判不服ヲ以テ大審院ニ上告シ上告中拘置セラル者モ亦此例ヲ通シ用フヘシ

附則

違警罪又ハ其他ノ刑事被告人ニテ従来親戚又ハ書記區戸長預ケ等ノ先規アルモノハ此保釋條例ト並ヒ行フヲ得ル

○遺失物及置贓物漂流物等取扱心得

十一年四月五日警視廳達シ但シ従前ノ違指等之ニ抵触スルモノハ取消ノ義ト可相心得事

第一條 遺失物及ヒ置贓物ヲ得ルノ訴アルキハ各署互ニ通報シ第一號書式ニ準シ三十日間掲示スヘシ

但シ置贓物ノ掲示ハ探索張込等ヲ要スル者ニ限り便宜猶豫スルヲ得

第二條 漂流沈没ニ係ルノ物品若クハ船後材水等ヲ得ルノ訴アルキハ總テ明治八年太政官第六十六號公布ニ照シテ處分シ其掲示書式ハ遺失物ニ準スヘシ

第三條 價額十圓以上ノ物品又ハ十圓以上ノ金銀及ヒ諸車船後其他物注ニ於テ必須ト思量スヘキ物品新聞紙ハ掲載廣告ノ爲メ其件名ハ勿論得者ノ姓名及ヒ拾ヒ得タル

遺失及漂流物取扱心得

附録百五十六



處ノ地名并ニ月日等詳細記載シテ速ニ本署へ開申スヘシ

第四條 其本署へ開申シ新聞紙へ掲載廣告スルモノト雖モ必ス各分署ニ揭示シ而シテ其處分ノ願末モ亦本署へ届出ベシ

第五條 一時出京セシ他管下ノ人民遺失物等ヲ拾ヒ得テ訴出スルモノ一年內飯國スルルハ後日處分ノ爲メニ代理人ヲ立置カシムヘシ若シ其代理人ナクシテ飯郷セシルハ處分ノ上手續書ヲ添へ本署へ開申シ本署ヨリ其報勞金物主ナキルハ其原物等ヲ便宜送致ス  
但送致ニ付テノ費用ハ其金額又ハ物件中ヨリ引去ルベシ

第六條 凡遺失物一年內ニ物主明白ナルルルハ双方代理人ニテモ妨ケナシ呼出ノ上遺失物取扱規則第四條ノ通り入費并ニ報勞金等ヲ付與スベキ旨ヲ物主へ申渡スベシ若シ物主ニ於テ報勞金等ヲ付與セス或ハ故障ヲ申立ル者アルルハ更ニ取調ヘ相當ノ處分ヲナスベシ

第七條 前條申渡ノ上得者ニ於テ入費并ニ報勞金ヲ受ケス該品ヲ物主ニ全還シ或ハ物主ヨリ得者ニ例外ノ附金ヲ與フル等相對示談スルハ双方ノ隨意タルヲ以テ之ヲ受理スルニ及ハス

第八條 遺失物ノ價額ヲ爭フ者アルニ由リ評價人ヲ雇ヒタルルル給料ハ遺失物ノ價額中ヨリ拂ハシムベシ  
但シ給料ハ一日五十錢ノ割ヲ以テスベシ



第九條 揭示日限ヲ過ギ物注サキ遺失物ノ内長大ニシテ領  
置不便ノモノ又ハ破損シ易キ者等ハ遺失物取扱規則ニ準  
擬シテ之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト見做シ一年間領置  
スルコトヲ得ベシ尤モ貴重并ニ希有ノ物品ハ此限ニアラズ  
但諸車ヲ公賣スルモ其檢印ヲ削除スベシ

第十條 漂流物ニ在テモ長大又ハ腐朽ノ虞アリテ耐久領置  
シ難キモノハ前條ニ準シ處分スルヲ得

但船筏ハ此限ニアラズ

第十一條 甲署管轄地内ニ於テ遺失物等ヲ得テ乙署ニ訴出  
ル者アルモ其管ノ地池ヲ論セス總テ訴ヲ受タル署ニ  
於テ處分スベシ

第十二條 官沒ノ遺失物ハ第四課(置贓物)又ハ應禁物等(第三

課)第三号書明細書ヲ副ヘテ納付ス可シ

第十三條 官廳内ノ遺失物ハ何人ノ拾取スルニ論ナク一年  
内ニ物主アルハ之ヲ全還シ物主ナキハ官沒スベシ

第十四條 鐵道列車内并ニステーションニ遺失シタル物品  
ハ前條官廳内ノ遺失物ニ擬シテ處分スベシ

第十五條 陸海軍及ヒ警察官其他官ノ徽章アル服帽ヲ拾ヒ  
得ル者ハ通常遺失物ヲ以テ論ス但シ一年内ニ物主ナクシ  
テ之ヲ得者ニ給スルモ其徽章ヲ去ルベシ

第十六條 私印ヲ拾ヒ得ル者ハ通常遺失物ヲ以テ論ズ其一  
年内ニ物主ナクシテ之ヲ得者ニ給スルモ其印面ヲ磨滅  
スベシ

但シ實印等ノ外書畫遊印ノ類ニテ後害ノ虞ナキハ磨滅



第九條 揭示日限ヲ過ギ物主ナキ遺失物ノ内長大ニシテ領置不便ノ者ノ又ハ破損シ易キ者等ハ遺失物取扱規則ニ準擬シテ之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト見做シ一年間領置スルヲ得ベシ尤モ貴重弁ニ希有ノ物品ハ此限ニアラズ但諸車ヲ公賣スルハ其檢印ヲ削除スベシ

第十條 漂流物ニ在テモ長大又ハ腐朽ノ虞アリテ耐久領置シ難キモノハ前條ニ準シ處分スルヲ得

但船筏ハ此限ニアラズ

第十一條 甲署管轄地内ニ於テ遺失物等ヲ得テ乙署ニ訴出ル者アルハ其所管ノ自治ヲ論セズ總テ訴ヲ受タル署ニ於テ處分スベシ

第十二條 官没ノ遺失物ハ第四課(置贖物)又ハ應禁物等(第三

課)第三号書明細書ヲ副ヘテ納付ス可シ

第十三條 官廳内ノ遺失物ハ何人ノ拾取スルニ論ナク一年内ニ物主アルハ之ヲ全還シ物主ナキハ官没スベシ

第十四條 鐵道列車内并ニステーションニ遺失シタル物品ハ前條官廳内ノ遺失物ニ擬シテ處分スベシ

第十五條 陸海軍及ヒ警察官其他官ノ徽章アル服帽ヲ拾ヒ得ル者ハ通常遺失物ヲ以テ論ス但シ一年内ニ物主ナクシテ之ヲ得者ニ給スルハ其徽章ヲ去ルベシ

第十六條 私印ヲ拾ヒ得ル者ハ通常遺失物ヲ以テ論ス其一年内ニ物主ナクシテ之ヲ得者ニ給スルハ其印面ヲ磨滅スベシ

但シ實印等ノ外書畫遊印ノ類ニテ後害ノ虞ナキハ磨滅

遺失及漂流物取扱心得

附録(百四十一)



ノ限ニアラズ

第十七條 金銀貨借證券若クハ爲替手形切手ノ類ヲ得ル物  
主ニ於必要トスルキハ相當ノ報勞金ヲ出シ又ハ費用等ヲ  
償ナハシメ其ノ不用ナルハ雙方ノ目前ニテ之ヲ破毀スベ  
シ

第十八條 車中ノ遺失物ヲ車夫或ハ車主ヨリ訴へ出一年內  
ニ物主明白ナレバ之ニ還付シ相當ノ費用ヲ償ナハシム  
ベシ若シ又物主明白ナラザルトモハ車夫或ハ車主へ給  
付スベシ

第十九條 郵便物ヲ拾ヒ得テ訴出ルルハ該品ヲ驛遞局又ハ  
最寄郵便局ニ交付シ其報勞金入費金等ノ如キハ遺失取扱  
規則第十條ニ依リ驛遞局ヨリ拂ハシムベシ

第二十條 郵便切手并ニ証券印紙等ヲ拾ヒ得ルハ通常遺失  
物ノ例ニ依テ處分スベシ

第二十一條 飲食物ヲ拾ヒ得ル者其原價五十錢未滿ト見飲  
スベキモノハ直ニ得者ニ全給スベシ

第二十二條 放逸セル牛馬等ヲ繫留シテ訴出スルトキハ之  
ヲ本人ニ預置セシメ若シ其ノ預置シ難キハ便宜之ヲ寄置  
シ遺失物取扱規則第八條第九條第十條ニ照シテ處分スベ  
シ

第二十三條 兎ハ直ニ得者ニ給與スベシ但シ畜養セントス  
ル者ハ納税スベキ旨ヲ申聞スベシ

第二十四條 火災ノ後其場ニ遺却セル物品ヲ拾ヒ得ル者物  
主明白ナレバ双方ノ事情ヲ量リ或ハ物主ニ全還シ又ハ費



用報勞金等ヲ拂ハシムルヲアルベシ

但一年内物主知レザル者ハ得者ニ全給スベシ

第二十五條 無檢印ノ舟車ヲ得ル者期限内ニ物主明白ナレバ先ヅ其無檢印ノ事由ヲ糾シ犯則者ト認ムル者ハ其向ヘ送付シ處分濟ノ上更ニ漂着物或ハ遺失物取扱規則ニ照シテ其處分ヲナスベシ

但シ期限内ニ物主ナクシテ得者ニ給スルハ府廳ニ申出檢印ヲ受クベキ旨ヲ申聞ベシ

第二十六條 邸内空屋或ハ藩園アル地等ニ遺棄シタル物品ヲ拾ヒ得ル者モ亦第二十四條ノ處分ニ依ルベシ

第二十七條 盜賊去リシ跡捨置タル物品ハ其賊ヲ得レバ物品ヲ併セテ第三課ニ送付シ若シ一年內ニ其賊縛ニ就カザ

レハ官没ス可シ

但事主明白ナルモノハ賊縛ニ就カスト雖モ直ニ還付スヘシ尤罪証及ヒ探偵ノ用ニ供スル爲メ便宜之ヲ預置スルヲ得ベシ

第二十八條 混堂或ハ客店等ニ於テ他ノ物品ト換場シ殘シ置タル物品ハ三十日間ニ其蹤跡ヲ得ザレバ被換者ニ給ス可シ若シ被換者知ル可カラサルハ一年間預置ノ上其店主ニ給ス可シ

第二十九條 市店ノ物品ヲ買フト稱シテ其代價ノ代リニ預ケ置キタル物品若クハ酒食代料ニ引當シ預品ハ三十日內ニ其蹤跡ヲ得ズ及ヒ其事主不分明ナルハ被換者又ハ預主ニ給スベシ但檢探ノ用ニ供スルヲアルハ一年間預置ス

遺失及漂流物取扱心得 附録(百四十二)



ルヲ得

第三十條 凡ソ茶店酒肆等ニ於ケル預ケ品及ヒ遺失物ハ一

ケ年内ニ事主分明ナラザレバ店主ニ全給スベシ

第三十一條 凡ソ一時隠埋セシ所ノ物品ヲ得ル者其諸人ノ自

在ニ出入通行ヲ得ルノ場所ニ於テセルハ遺失物取扱規則

ニ依リ處分スベシ

第一號 揭示書式

一金何圓何十錢

一何品 何個

一々々 々々

右何月何日(夜)第何大區何小區何町ニ於テ何ノ誰拾ヒ得(又ハ漂着候趣訴出候條心當リノ者ハ速ニ書面ヲ以テ當署(警

視第何方面第何分署へ可申出候事

東京警視第何方面

年號月日

第何分署

第二號

一何品 何個

一々々 々々

右ハ何月何日何<sup>府</sup>縣何大區何小區何<sup>町</sup>海岸へ漂候旨該<sup>府</sup>縣ヨリ通知有之候條心當リノ者ハ速ニ書面ヲ以テ所轄警視分署へ可申出候事

々々々々

々々々前ニ同シ

第三號

遺失及漂流物取扱心得

附録(百十三)



記

一金何圓錢也

但何々件ニヨリ何月何日没収スル分

一何品 何個

但全上

合計

金何圓錢

物品何個

右ハ當分署ニ於テ没収候ニ付納付候也

第何方面第何分署長

年號月日

第三(四)課

御中

官氏名印

<p>違式註違條例</p> <p>一條 違式の罪を犯す者ハ七十五錢より少 ク少シク一圓五十錢より多 ク少シク一圓五十錢より多 ク少シク一圓五十錢より多 ク少シク一圓五十錢より多</p>	<p>贖金を追徴し註違の罪目を 犯す所極めて輕きハ止む可 き更なる可</p>
<p>二條 註違の罪を犯す者ハ五錢より少 ク少シク七十錢より多シク少 ク少シク七十錢より多シク少 ク少シク七十錢より多シク少 ク少シク七十錢より多シク少</p>	<p>贖金を追徴し註違の罪目を 犯す所極めて輕きハ止む可 き更なる可</p>
<p>三條 違式註違の罪を犯し無力の者ハ 賣決するを免るの如し</p> <p>一 違式懲役 八日より少シク多 シク多シク多シク多シク多 シク多シク多シク多シク多 シク多シク多シク多シク多</p>	<p>贖金を追徴し註違の罪目を 犯す所極めて輕きハ止む可 き更なる可</p>
<p>一 註違拘留 半日より少シク多 シク多シク多シク多シク多 シク多シク多シク多シク多 シク多シク多シク多シク多</p>	<p>贖金を追徴し註違の罪目を 犯す所極めて輕きハ止む可 き更なる可</p>
<p>四條 違式註違の罪を犯し無力の者ハ 賣決するを免るの如し</p> <p>但 物留の罪と異ハ違式懲 役ニ換テ賣決スルベシ</p>	<p>贖金を追徴し註違の罪目を 犯す所極めて輕きハ止む可 き更なる可</p>
<p>五條 違式註違の罪を犯し人小損失 を蒙ラシむ時ハ先づ其損失 小當る命ナベシ</p>	<p>贖金を追徴し註違の罪目を 犯す所極めて輕きハ止む可 き更なる可</p>
<p>六條 違式の罪目を犯すと異ハ情 狀輕重者ハ減等して註違の 違式註違條例</p>	<p>贖金を追徴し註違の罪目を 犯す所極めて輕きハ止む可 き更なる可</p>
<p>附録(百四十四)</p>	<p>贖金を追徴し註違の罪目を 犯す所極めて輕きハ止む可 き更なる可</p>



十五條	外國人をして私小雜居せしむる者	三十八條	十一月三日
十六條	町火消為人共町々音請を管造の節地町組合違の者	註違罪目	
十七條	夜中無燈の馬車を以て通行する者	三十九條	狭路の小路を馬車
十八條	人家稠密の場所於て安火の火種を玩ぶ者	四十條	夜中無燈の馬車
十九條	火車場小間係者	四十一條	明治六年三月二十
二十條	三月二十日	四十二條	野酌の馬車を疾馳
二十一條	鐵道小往來ノ常燈	四十三條	野酌の馬車を疾馳
二十二條	標識又ハ相標識ノ或ハ股脚	四十四條	野酌の馬車を疾馳
二十三條	通行留計標識有る道路橋	四十五條	野酌の馬車を疾馳
二十四條	河堤等をして犯して通過	四十六條	野酌の馬車を疾馳
二十五條	男女相撲並ニ地遊ヒ其他	四十七條	野酌の馬車を疾馳
二十六條	見物小出する者	四十八條	野酌の馬車を疾馳
二十七條	川端下水等ハ土砂瓦礫	四十九條	野酌の馬車を疾馳
	等を投棄し流通を妨る者	五十條	野酌の馬車を疾馳

三十七條	湯屋渡世の者戸口を明	四十八條	明治六年七月十五日
三十八條	湯屋前掃除を怠り或ハ	四十九條	市中往來筋小於て便所
三十九條	湯屋前掃除を怠り或ハ	五十條	市中往來筋小於て便所
四十條	湯屋前掃除を怠り或ハ	五十一條	市中往來筋小於て便所
四十一條	湯屋前掃除を怠り或ハ	五十二條	市中往來筋小於て便所
四十二條	湯屋前掃除を怠り或ハ	五十三條	市中往來筋小於て便所
四十三條	湯屋前掃除を怠り或ハ	五十四條	市中往來筋小於て便所
四十四條	湯屋前掃除を怠り或ハ	五十五條	市中往來筋小於て便所
四十五條	湯屋前掃除を怠り或ハ	五十六條	市中往來筋小於て便所
四十六條	湯屋前掃除を怠り或ハ	五十七條	市中往來筋小於て便所
四十七條	湯屋前掃除を怠り或ハ	五十八條	市中往來筋小於て便所
四十八條	湯屋前掃除を怠り或ハ	五十九條	市中往來筋小於て便所
四十九條	湯屋前掃除を怠り或ハ	六十條	市中往來筋小於て便所
五十條	湯屋前掃除を怠り或ハ	六十一條	市中往來筋小於て便所
五十一條	湯屋前掃除を怠り或ハ	六十二條	市中往來筋小於て便所
五十二條	湯屋前掃除を怠り或ハ	六十三條	市中往來筋小於て便所
五十三條	湯屋前掃除を怠り或ハ	六十四條	市中往來筋小於て便所
五十四條	湯屋前掃除を怠り或ハ	六十五條	市中往來筋小於て便所
五十五條	湯屋前掃除を怠り或ハ	六十六條	市中往來筋小於て便所
五十六條	湯屋前掃除を怠り或ハ	六十七條	市中往來筋小於て便所
五十七條	湯屋前掃除を怠り或ハ	六十八條	市中往來筋小於て便所
五十八條	湯屋前掃除を怠り或ハ	六十九條	市中往來筋小於て便所
五十九條	湯屋前掃除を怠り或ハ	七十條	市中往來筋小於て便所
六十條	湯屋前掃除を怠り或ハ	七十一條	市中往來筋小於て便所
六十一條	湯屋前掃除を怠り或ハ	七十二條	市中往來筋小於て便所
六十二條	湯屋前掃除を怠り或ハ	七十三條	市中往來筋小於て便所
六十三條	湯屋前掃除を怠り或ハ	七十四條	市中往來筋小於て便所
六十四條	湯屋前掃除を怠り或ハ	七十五條	市中往來筋小於て便所
六十五條	湯屋前掃除を怠り或ハ	七十六條	市中往來筋小於て便所
六十六條	湯屋前掃除を怠り或ハ	七十七條	市中往來筋小於て便所
六十七條	湯屋前掃除を怠り或ハ	七十八條	市中往來筋小於て便所
六十八條	湯屋前掃除を怠り或ハ	七十九條	市中往來筋小於て便所
六十九條	湯屋前掃除を怠り或ハ	八十條	市中往來筋小於て便所
七十條	湯屋前掃除を怠り或ハ	八十一條	市中往來筋小於て便所
七十一條	湯屋前掃除を怠り或ハ	八十二條	市中往來筋小於て便所
七十二條	湯屋前掃除を怠り或ハ	八十三條	市中往來筋小於て便所
七十三條	湯屋前掃除を怠り或ハ	八十四條	市中往來筋小於て便所
七十四條	湯屋前掃除を怠り或ハ	八十五條	市中往來筋小於て便所
七十五條	湯屋前掃除を怠り或ハ	八十六條	市中往來筋小於て便所
七十六條	湯屋前掃除を怠り或ハ	八十七條	市中往來筋小於て便所
七十七條	湯屋前掃除を怠り或ハ	八十八條	市中往來筋小於て便所
七十八條	湯屋前掃除を怠り或ハ	八十九條	市中往來筋小於て便所
七十九條	湯屋前掃除を怠り或ハ	九十條	市中往來筋小於て便所
八十條	湯屋前掃除を怠り或ハ	九十一條	市中往來筋小於て便所
八十一條	湯屋前掃除を怠り或ハ	九十二條	市中往來筋小於て便所
八十二條	湯屋前掃除を怠り或ハ	九十三條	市中往來筋小於て便所
八十三條	湯屋前掃除を怠り或ハ	九十四條	市中往來筋小於て便所
八十四條	湯屋前掃除を怠り或ハ	九十五條	市中往來筋小於て便所
八十五條	湯屋前掃除を怠り或ハ	九十六條	市中往來筋小於て便所
八十六條	湯屋前掃除を怠り或ハ	九十七條	市中往來筋小於て便所
八十七條	湯屋前掃除を怠り或ハ	九十八條	市中往來筋小於て便所
八十八條	湯屋前掃除を怠り或ハ	九十九條	市中往來筋小於て便所
八十九條	湯屋前掃除を怠り或ハ	一百條	市中往來筋小於て便所
九十條	湯屋前掃除を怠り或ハ		

違式註違條例

附録(百十五)



<p>六十一條 道傍又は人家の於て強て 合力を申掛り或ハ押賣す 者</p>	<p>同六十八條 明治十一年二月二十 三日明除</p>
<p>六十二條 紳祭礼の節世話人 等強て出費を促す者</p>	<p>同六十九條 河端石垣等へ挿を突入 規小違背す者</p>
<p>六十三條 紳祭礼の節世話人 等強て出費を促す者</p>	<p>七十條 河端石垣等へ挿を突入 規小違背す者</p>
<p>六十四條 紳祭礼の節世話人 等強て出費を促す者</p>	<p>七十一條 河端石垣等へ挿を突入 規小違背す者</p>
<p>六十五條 紳祭礼の節世話人 等強て出費を促す者</p>	<p>七十二條 河端石垣等へ挿を突入 規小違背す者</p>
<p>六十六條 紳祭礼の節世話人 等強て出費を促す者</p>	<p>七十三條 河端石垣等へ挿を突入 規小違背す者</p>
<p>六十七條 紳祭礼の節世話人 等強て出費を促す者</p>	<p>七十四條 河端石垣等へ挿を突入 規小違背す者</p>

違式註違條例終

明治十一年五月十四日御届

註解人 安井乙熊

定價金六拾錢

出版人 青木輔清

東京第二大區八小區  
芝西應寺町三番地寄留  
同第一大區十三小區  
濱町二丁目一番地

東京 廣律社藏板  
東京 同盟舎發兌



<p>六十三條 牛馬其他諸獸は屠殺せしめざる者</p> <p>六十四條 舟楫を濫用し妨害となる可き者</p> <p>六十五條 牛乳採取人心得規</p> <p>六十六條 川瀬を往來する者</p> <p>六十七條 官林官園及び公園を掘削する者</p>	<p>六十八條 明治十一年二月二十</p> <p>六十九條 河川に石垣等を入</p> <p>七十條 河川に石垣等を入</p> <p>七十一條 河川に石垣等を入</p> <p>七十二條 河川に石垣等を入</p> <p>七十三條 河川に石垣等を入</p>
---	---

違式註違條例終

明治十一年五月十四日御届

註解人 安井乙熊

定價金六拾錢

出版人 青木輔清

同第一大區十三小區  
濱町二丁目一番地

東京 廣律社藏板  
東京 同盟舎發兌



發賣書肆

東京本町三丁目

中外堂梅次郎

同 横山町三丁目

内田 弥兵衛

同 馬喰町一丁目

石川 治兵衛

同 本石町三丁目

江嶋 喜兵衛

同 興服町

同 伊兵衛

同 大傳馬町三丁目

東生 龜次郎

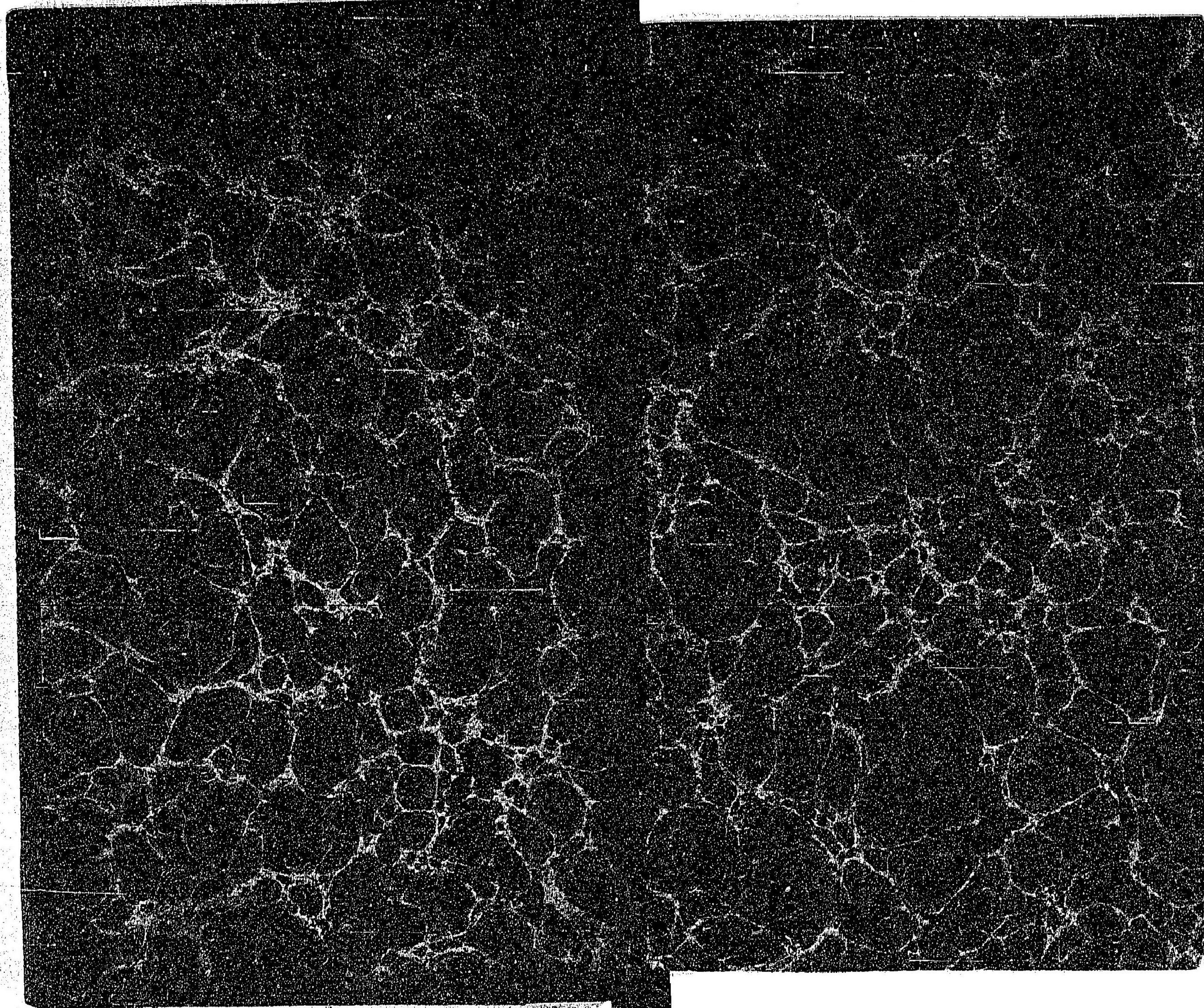
同 通 三丁目

丸家 善七

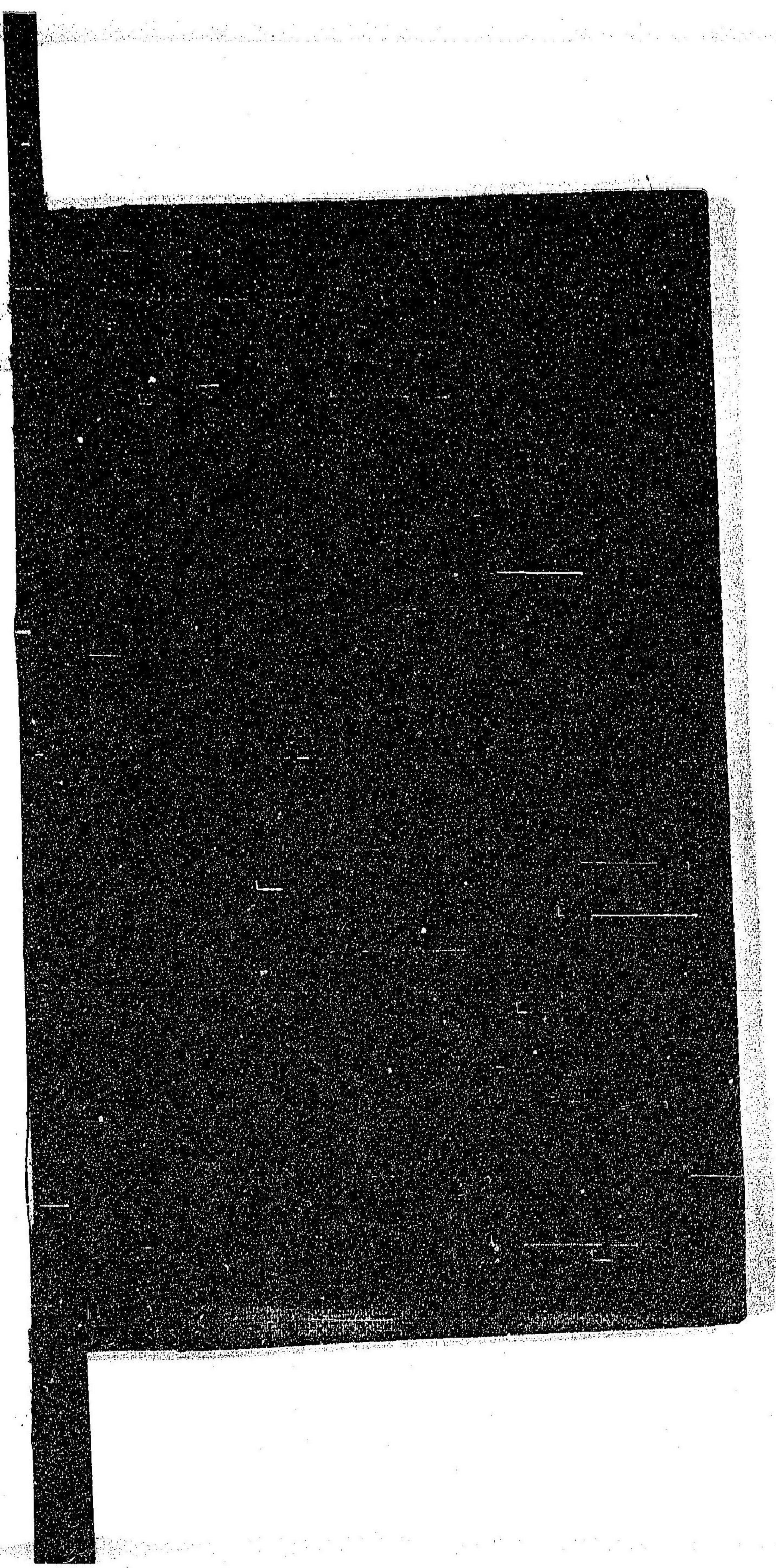
西京大阪名古屋横濱

丸善 支店











036262-000-7

特58-909

新律綱領改定律例改正条例伺御指令袖珍对比註解

安井 乙熊 / 註

M11

BBP-0982







館書圖京東

函〇ニ門新

架大部〇一

號八二四七類二



